



生活支援体制整備事業 「協議体」のあゆみ

みんなでつなごう！支え合いの輪！



令和2年1月発行
高崎市第1層協議体
高崎市役所福祉部長寿社会課
TEL. 027-321-1319

みんなであつなごう！ 支え合いの輪！

「介護が必要な状態になっても、誰もが安心して住み慣れた地域で暮らし続ける」ための地域包括ケアシステムを構築する取り組みの一つとして、地域に住む高齢者の生活支援に関するニーズや社会資源を把握し、困りごとがあれば住民主体による互助を基盤としたサービスや支援を創出し、生活支援の体制を整備していく「生活支援体制整備事業」を推進しているところです。

この冊子は、生活支援体制整備事業、各協議体や地域で行われている活動・取り組み内容等を関係者で共有し、「つながり、支え合いの輪」を広げていくことを目的に作成しています。

協議体の関係者の皆様が、自らの強みを生かしながら、連携・協力して、誰もが安心して暮らせる社会を目指し、生活支援や地域の課題解決の視点を含めて、更に協議体が推進していくためのきっかけとなるよう、この冊子をご活用いただけることを願っております。

高崎市第1層協議体

～ 目 次 ～

1. 生活支援体制整備事業とは	1
2. 協議体・居場所の活動紹介	2
第1層協議体	3
第2層協議体（26協議体）	5～56
高齢者の居場所	57～62
3. 取り組みの体制	63
第2層協議体	64
第1層協議体と第2層協議体の関係	65
第1層生活支援コーディネーター	66
高齢者あんしんセンター	66
高崎市社会福祉協議会	67
地域支え合いサポーター	68
4. 参考資料	69

1. 生活支援体制整備事業とは

高崎市では、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、「医療・介護・予防・住まい・生活支援」が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の実現に向けて、高齢者の社会参加・介護予防に向けた取組、配食・見守り等の生活支援体制の整備、在宅生活を支える医療と介護の連携及び認知症の方への支援の仕組み等を一体的に推進しながら、高齢者を地域で支えていく体制を構築するための「地域支援事業」を実施しています。

地域支援事業の一つとして、生活支援体制整備事業は、各地域の実情に応じて住民等の多様な主体が参画し、多様なサービスを充実することにより、地域の支え合いの体制づくりを推進することを目指しています。

生活支援体制整備事業は、高齢化が進み、日常生活への支援の必要性が増大し、介護保険サービスだけでなく多様な生活支援サービスを提供することが必要となってくる社会を背景に、元気な高齢者をはじめとした地域住民が担い手として参加する住民主体による支え合いや、NPO法人、社会福祉法人、協同組合等の民間企業、地縁組織、社会福祉協議会などの多様な主体による生活支援サービスの提供体制を構築していく事業です。

市民活動への理解があり、生活支援等サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能（主に資源開発やネットワーク構築の機能）を果たす「生活支援コーディネーター」（地域支え合い推進員）の配置と、地域住民をはじめとする地域の関係者で構成される「協議体」の設置により、多様な主体間の情報共有及び連携・協働による体制整備を推進しています。

	
新しい介護予防・日常生活支援総合事業 (要支援1～2、それ以外の者) <ul style="list-style-type: none"> ○ 介護予防・生活支援サービス事業 <ul style="list-style-type: none"> ・訪問型サービス ・通所型サービス ・生活支援サービス(配食等) ・介護予防支援事業(ケアマネジメント) ○ 一般介護予防事業 	多様な主体 によるサービス創出 支え合いの地域づくり  <ul style="list-style-type: none"> 現行の訪問介護相当・所介護相当から実施 特定生活支援サービス 介護予防サポーター活動体制強化 訪問指導事業 介護予防教室（運動、認知症等） 高齢者の居場所補助事業
包括的支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域包括支援センターの運営 (左記に加え、地域ケア会議の充実) ○ 在宅医療・介護連携の推進 ○ 認知症施策の推進 (認知症初期集中支援チーム、認知症地域支援推進員等) ○ 生活支援サービスの体制整備 (コーディネーターの配置、協議体の設置等) 	地域支援事業 <ul style="list-style-type: none"> 基幹型直営1箇所+地域型委託29箇所 地域ケア個別会議・地域別課題検討会議 医療介護連携相談センター設置 2箇所 認知症初期集中支援チーム設置 認知症地域支援推進員配置 31人 第1層生活支援コーディネーター2名配置 第2層協議体26箇所設置 第1層協議体設置
任意事業 <ul style="list-style-type: none"> ○ 介護給付費適正化事業 ○ 家族介護支援事業 ○ その他の事業 	配食サービス 

※高崎市長寿社会課資料より 令和元年12月現在

「協議体」取り組みの経緯

平成18年から21年にかけて6町村と合併した高崎市は、人口37万人の中核市となりました。合併町村の中には高齢化率が45%を超える地域や18%を下回る地域が存在しており、要介護率も開きがあります。このような特性を背景に地域ごとに必要とされる支援、支え合いの活動もそれぞれ異なるため、平成27年度から高齢者あんしんセンターの圏域である日常生活圏域ごとに第2層協議体設置に向けた取り組みを開始しました。その後、3年をかけて市内全域に計26か所の第2層協議体が発足しました。各第2層協議体では、地域住民たちが自らの意思で協議体の会議に参加して支え合いについて話し合いを行っています。

平成29年からは、市全域での支え合い活動を広めるために、第1層協議体設置に向けた取り組みが開始されました。居場所の代表者、介護予防サポーター、オレンジサポーター、行政書士、民間企業の経営者、こども園の園長など様々な活動の背景をもつメンバーにより、平成30年5月に第1層協議体が発足しました。

各地域での「協議体」発足からのあゆみとこれから

高齢化が進み、人間関係が希薄になっているといわれている社会で、地域住民の方々がお互いに困りごとが話せて、元気な方々が担い手となって活躍でき、人と人がつながっていく地域になっていくことが、これからの超高齢社会に求められています。

高崎市では、第2層協議体発足に向けて、各地域の特徴を踏まえ「地域のつながり」を大切にしながら第2層協議体を発足させてきました。高齢者あんしんセンター、社会福祉協議会、市の長寿社会課の職員もメンバーとして参画していますが、住民主体の代表者はいない会議体となっています。

協議体発足後は、メンバー間の情報共有と困りごとの解決を目標に住民のできるのところからスタートし、メンバーが所属している町内会などの団体やサポーター、サークル活動などの仲間へつながりを広げ、支え合いについてできることを増やしていきます。今後は、協議体を継続していくために新たな仲間を増やすことや、行政などのバックアップも受けながら活動を強化していくことが必要となります。

具体的な活動としては、第2層協議体メンバーで地図を見ながら買物、集いの場などの社会資源の把握を行ったり、困りごとを直接集いの場などに出向いて聞き取ったり、区長や民生委員の協力で回覧やアンケートを実施した地区もあります。各協議体によって状況は違いますが、共通していることは「できることから」、「つながる」、「楽しく」という言葉を大切にして協議体活動に取り組んでいます。

高崎市では、これからも住民の思いと目指す地域像を大切に、協議体の取り組みを推進していきたいと考えています。協議体では、地域の情報共有、困りごとの把握、課題解決、必要な支え合い創出というサイクルを繰り返しながら前進していきたいと思っています。

2. 協議体・居場所の活動紹介

次ページから「各協議体の活動・メッセージ、PRしたいこと」や「高齢者の居場所」を紹介いたします！

※ 紹介は、第2層協議体取り組み開始年度順
各ページの人口、高齢化率はR1.11.30現在

高崎市第1層協議体

地域：市内全域

人口：367,485人 高齢化率：28.15%

発足時期：H30.5 メンバー数：13人

開催日時：毎月上旬 13:00～16:15

場所：市役所、総合保健センター内会議室

スローガン／目指す地域像

みんなでつながろう！ 支え合いの輪！



RI.10	<u>ふれあいの広場での周知活動実施</u>
RI.11	<u>新メンバー3人参加</u> 居場所や地域づくり活動協議会など地域で活躍している住民メンバーが加わりました。
RI.12	<u>第1層協議体メッセージ決定</u> 「つながりを もっとつなげて 目指せワンハート♡」

協議体の特徴や雰囲気

居場所の代表者、介護予防サポーター、オレンジサポーター、行政書士、民間企業の経営者、こども園の園長など、第2層協議体メンバーの中で、多様な活動を背景に持つ方々に声を掛けて、高崎市としてどのような第1層協議体を目指すのかを検討することからスタートしました。

RI.12 現在、第1層協議体は住民メンバーを中心とした企画会議と、推進役の高齢者あんしんセンターを中心とした推進会議を行っています。住民メンバーを中心とした企画会議では、支え合いをどう広められるか、第1層協議体で活動状況を共有し、第2層協議体が活動しやすいようにするための周知について企画や検討を行っています。推進役の高齢者あんしんセンター中心の推進会議では、取り組み事例を基に推進役としての気付きや共感から、考え方や地域への関わり方、心構えを学ぶ機会となっています。

周知

【目的】 市民の方々に協議体活動を知ってもらう

第2層協議体の担い手募集

【方法】 チラシを作成して、ふれあいの広場にて配布

【対象】 ふれあいの広場参加者

【時期】 RI.10

【結果】 第1層協議体メンバーと有志の第2層協議体メンバー・高齢者あんしんセンターの協力者により、参加者一人ひとりに手渡してチラシ2,276枚を配布。

活動の経過

H30.5	<u>第1層協議体発足</u>
H30.8～	<u>第2層協議体活動情報共有</u> 活動状況一覧表作成、共有。 各2層協議体の今月の取り組み状況について意見交換を行っています。
H31.1	<u>第2層協議体情報交換会開催</u> 1年間の活動をトークセッションで振り返りました。市内26協議体、計280人参加しました。 情報交換会開催前に、市役所中2階ロビーにてパネル展を開催し、大型ビジョンで活動紹介VTRを放映しました。
H31.3	<u>市民向けフォーラム開催</u> 「あなたにもできることがある！」をメッセージに、市内で活動する3人が事例紹介、計157人参加しました。
RI.6	<u>各第2層協議体の成果物を集め、各第2層協議体に配布</u>
RI.7～	<u>第1層協議体を企画会議と推進会議の2部構成で開催</u> <u>企画会議</u> ：住民を主体とした企画会議 現在は、周知について検討(RI.10ふれあいの広場での周知活動を行いました) <u>推進会議</u> ：高齢者あんしんセンターを中心に事業推進について事例検討・情報共有

アンケートで協議体と繋がりたいと回答いただいた方が27人いました。「みんなで元気に支え合いを広めよう」という思いで、プログラムに飛び入り参加し「長生きサンバ」を会場のみなさんと一緒に踊りました。



アンケート

【目的】 協議体の認知度を知り、住民が日常生活で何に困り、何を手伝えることができるのか知る

【方法】 ふれあいの広場での聞き取りアンケート

【対象】 ふれあいの広場の来場者

【時期】 R1.10

【結果】 アンケート結果 回答27枚。

協議体の認知度は約4割（活動内容まで知っている方は約1割）であることがわかりました。今後第2層協議体とつながりたいと答えた方が15人いました。



第2層協議体の把握

【目的】 ①第2層協議体の進捗状況確認

②第1層協議体の取り組む内容検討

③第2層協議体へ情報提供

【方法】 ①活動状況一覧表作成（高齢者あんしんセンターから提出していただいている情報共有シートから今月のトピックスを共有）、②成果物共有（各協議体の成果物の共有）、③成果物配布

【時期】 ①H30.8～第1層開催時、②③R1.6

【結果】 第2層協議体の活動を共有した結果、第2層協議体のバックアップとして、市全体で協議体を周知する必要があることがわかり、ふれあいの広場で周知活動を行うことになりました。

第1層協議体で集めた情報を、各第2層協議体へフィードバックすることによって、他の協議体活動を知り、お互いに学び合うことができました。地区によっては、協議体会議を合同で開催し、情報交換を行った地区もあります。

第2層情報交換会

【目的】 各地区の状況を知り、ヒントを持ち帰る

【対象】 第1層・第2層協議体メンバー

【時期】 ①H30.1 ②H31.1 ③R2.1

【結果】 ①参加者113人、アンケート回答者88人「お互いの状況が分かって参考になった」「地区によって進み方が異なることがわかった」などの感想が寄せられました。

②参加者280人、アンケート回答者114人「昨年からの経過を知ることができ参考になった」「トークセッションでの話を聞いて勇気付けられた」との感想が寄せられました。

市内全体での情報共有の必要性を改めて感じました。

市民向けフォーラム

【目的】 支え合い活動の必要性について広く市民に啓発する

【方法】 さわやか福祉財団堀田会長による基調講演
支え合い活動の実践者によるパネルディスカッションを開催

【対象】 高崎市民（広報高崎にて周知）

【時期】 H31.3

【結果】 参加者157人。アンケート回答者89人。

堀田会長のお話や、実践者からの報告を聞いて支え合いについて共感が得られ、「自分も支え合い活動ができそうだ」と回答した方が約8割でした。



メッセージ、PRしたいこと

つながりを もっとつなげて 目指せワンハート♡

八幡地区協議体

地域：八幡・西部・鼻高小校区

人口：16,262人 高齢化率：30.97%

発足時期：H28.1 メンバー数：26人

開催日時：第1月曜 18:00～19:30

場所：じゃんけんぼん金井淵地域支え合いセンター

スローガン／目指す地域像

動ける人がお互いに見守る交流のある町



八幡協議体会議の様子

協議体の特徴や雰囲気

八幡地区は15町内会あり、公民館が3館、小学校が3校あります。

協議体メンバーは、元区長、元民生委員を中心とした八幡クラブから、町内ごとに一人ずつ、民生委員・公民館長各3人（3小学校区より一人ずつ）で構成しています。多忙なメンバーが多いため、第1月曜日18時から協議体会議を開催しています。楽しく活動することを目標にしています。地域のことを大切に思っているため、熱心な議論が交わされることも多いです。

周知

【目的】協議体発足、地域支え合いサポーター募集
協議体が発足したことを伝えると共に、地域の支え合い活動の担い手を増やすため

【方法】チラシ作成、回覧
2枚のチラシを作成し配布

【対象】全世帯

【時期】

H28.4 「協議体発足」、「地域支え合いサポーター募集
チラシ」発行

H30.2 「八幡協議体たより」発行（回覧）
（下大島町・剣崎下の居場所の紹介）

H30.7 「八幡協議体たより」発行（回覧）
（鼻高町・剣崎上の居場所紹介）

支え合い体制づくり

H28.9 から各町内会で支え合いの勉強会を行い、支え合いの体制づくりを始めました。15町内のうち、12町内で実施し、各町内に地域支え合いサポーターを養成しました。

ニーズ把握

【目的】住みよい八幡地区となるためには、「何が必要か？」を知るため

活動の経過

H28.1	八幡地区協議体発足、目指す地域像決定
H28.4	「協議体発足について」「地域支え合いサポーター募集」のチラシを作成し配布
H28.9	各町内会で勉強会を行う 各町内会で支え合いの体制づくりをはじめ
H28.9	集まりの場の既存資源一覧表作成 （グランドゴルフ、畑サロンなど）
H28.10	各町内で第3層協議体への体制づくり
H29.1	地域支え合いサポーター養成講座①
H29.6	地域支え合いサポーター養成講座②
H29.8	居場所八起き（下大島）発足
H29.9	地域の社会資源を一覧表作成（集いの場）
H29.11	区長会で八幡地区協議体について説明
H30.1	第2層協議体情報交換会
H30.1	ピーチサロン（剣崎上居場所発足）
H30.2	「八幡協議体たより」発行
H30.6	地域支え合いサポーター養成講座③
H30.7	地域支え合いサポータースキルアップ講座①
H30.7	「八幡協議体たより」発行
H30.11	地域支え合いサポーターによる生活支援開始
H31.1	第2層協議体情報交換会
R1.7	地域支え合いサポータースキルアップ講座②
R1.12	地域支え合いサポーター向けチラシ作成・配布

【方法】 アンケート調査、一人ひとり聞き取り調査
行事での聞き取り、グラウンドゴルフ・サークル活
動等での聞き取り

【対象】 町内ごとに検討 → しかし

「真のニーズを拾うことは難しい！」と実感

日常的な関わりの中で、住民同士の信頼関係やお互い
様の支え合いの中から出てくるものなのだと気づきま
した。

【結果】

「お互いに支え合えるサポーターを作ろう！」

ということになりました。

社会資源の把握

【目的】 八幡地区には、「どのような活用できる資源が
あるのか？」をメンバー全員で確認し共有するため。

【方法】 八幡地区の地図を広げマッピング作業を行
いました。シールで色分け：地区サロン（赤）、居場所
（青）、とくし丸（黄）、グラウンドゴルフ（緑）

【時期】 H29.9



【結果】 まず八幡地区の地形を確認しました。地区の
範囲が広く、国道やJRの線路が走っており、線路に
より行き来ができない地域、坂のため徒歩での移動
がたいへんな地域があることがわかりました。

社会資源がたくさんあるように思えていましたが、
地区が広く近くに何も無い地域や、集まりの場が徒
歩では遠いと感じる地域もたくさんあることがわか
りました。歩いても行ける場所に、更に社会資源が
必要であると感じ、各町内ごとに居場所づくりを
開始しました。

担い手の養成

【目的】 「お互いに支え合えるサポーターをつくろう」

【方法】 協議体と市の共催で、地域支え合いサポ
ーター養成講座を実施

【対象】 支え合い活動に賛同してくれる仲間を協議体
メンバーが声かけし集めました。

【時期】

H29.1 第1回地域支え合いサポーター養成講座

H29.6 第2回地域支え合いサポーター養成講座

H30.6 第3回地域支え合いサポーター養成講座

H30.7 第1回地域支え合いサポータースキルアップ講座

R1.7 第2回地域支え合いサポータースキルアップ講座

【結果】 現在、約150人の登録があります。また、活
動に際し、大切なことや必要に応じたスキルを学ぶ
機会として、地域支え合いサポータースキルアップ
講座を開催しました。見守り声掛け活動、居場所の
運営、買い物支援などの活動が少しずつ始まってい
ます。

地域支え合いサポーター養成講座



地域支え合いサポータースキルアップ講座

生まれた支え合い活動

【居場所】

金井淵 体操とお茶会

剣崎下 いきいきふれあいサロン

下大島 居場所「八起き」

剣崎上 ピーチサロン

藤塚 健康マージャンクラブ



剣崎下サロン



居場所「八起き」

【買い物】

移動販売とくし丸（5町内7ヶ所）

地域支え合いサポーターによる買い物時のお手伝い
（声掛け、荷物運びなど）

【地域支え合いサポーターによる生活支援】

枯れ葉清掃

独居高齢者の見守り

難病の方への生活支援等

【ベンチ設置】 スーパーに依頼して
お店の前に休憩用のベンチを設置



枯れ葉清掃



メッセージ、PRしたいこと

「支え合い、声かけあっておもしろい」

👤 お互いに 🤝 もしもの時は 🔄 いつもの通り 🙌 やさしく支える 🏠 隣保班

新町地区協議体

地域：新町地域

人口：11,941人 高齢化率：30.13%

発足時期：H28.4 メンバー数：13人

開催日時：第4水曜 9：30～11：30

場所：新町長寿センター

スローガン／目指す地域像

あったらいいな！が実現できる町～私たちの力で～



協議体の特徴や雰囲気

メンバーは、地域に根差して活動している人が多く、地域で困っていることや自分たちで何が出来るのか、和やかな雰囲気です話し合っています。新町を良くしたいという熱い思いでヒートアップすることもあります、楽しく過ごしています。

周知

【目的】協議体の発足や活動のPR

【方法】町内でチラシ作成・全戸配布。いきいきサロンの配布、メンバーが各自で配布(医療機関など)

【対象】新町地域

【時期】①H28.9、②R1.8

【結果】①予想より反応が少なく、理解をしてもらうには時間がかかりそうでした。

②メンバーの近所の方から「重い物持つよ」「一緒に買い物へ行ったらいい」「協議体って何?」「支え合いサポーターになりたい」という反応がありました。

活動の経過

H28.4	<u>新町地区協議体発足</u> ・3回の勉強会を経て、12人のメンバーで発足。目指す地域像が決定しました。
H28.6	<u>社会資源をマップに書き込み</u>
H28.6	<u>民生委員にアンケート依頼</u> ・新町社協に協力してもらい、一声かけ運動の時に買い物についてアンケートを依頼しました。
H28.8	<u>買い物について既存資源の確認</u> ・新町内の商店による移動販売、コンビニ、新町商工会の宅配サービスなどを確認しました。
H28.9	<u>第1号チラシを全戸配布</u>
H29.1	<u>新町商工会の宅配サービス周知チラシ配布</u> ・買い物で困っている方が既存の宅配サービスを活用出来るようにチラシを作成し、配布・掲示しました。
H29.9	<u>困り事の意見交換会を開催</u> ・各区いきいきサロン運営者47人参加しました。
H30.1	<u>買い物についてアンケート</u> ・9区・10区のいきいきサロン参加者を対象に実施しました。
H30.6	<u>支え合い活動について考える会を開催</u> ・区長・民生委員68人参加しました。
H30.12	<u>移動販売開始(1区、9区)</u>
R1.8	<u>移動販売についての第2号チラシを全戸配布</u>





があることが分かりました。新町に長く暮らしている方でも「知らなかった」という声があり、地域に何があるか分かりました。

既存資源の新町宅配サービスを買いで困っている方に使用してもらうために、誰でも使えることをわかりやすくチラシを作成することになりました。



ニーズ把握

【目的】何に対して困っているのか？何を求めているのか？を知る

【方法】アンケート、いきいきサロンボランティアの交流会にて聞き取り

【対象】区長、民生委員、いきいきサロンボランティア

【時期】H28.6 H30.1 H30.6.27

【結果】9区・10区では近くにスーパーがなく、買った物を持って帰るのがたいへんなどの意見が多くありました。



社会資源の把握

【目的】既存サービスの把握（買い物、集いの場）

【方法】地図に既存資源のマッピング
商店や商工会からの聞き取りを行いました。

【時期】H28.6 H28.8

【結果】新町の商店が移動販売をしていることや、埼玉県上里町と藤岡市からも移動販売が来ている場所

生まれた支え合い活動

協議体メンバーが移動販売業者と連絡・相談し、買い物で困っている方の家に移動販売車が巡回してくれるようになり、利用者同士の交流も生まれました。地域支え合いサポーターが買い物時のお手伝い（声掛け、荷物運びなど）を行い、いつも来ている方が来なかった時に気にかけてくれるようになって、見守りにも繋がっています。「地域支え合いサポーターになりたい」という反応もあり、いつも自宅まで荷物を届けてくれるサポーターさんができました。



メッセージ、PRしたいこと

いろいろなボランティアの方々が支え合いサポーターと一緒に、地域の方たちを支援する活動が始まりました。この活動を町全体に広げていくために、もっと多くの方たちに協議体に興味をもってもらえるよう、今後もPRしていきたいです。

片岡地区協議体

地域：片岡小学校区

人口：8,516人 高齢化率：31.72%

発足時期：H28.9 メンバー数：14人

開催日時：第4月曜 10:00~12:00

場所：片岡公民館

スローガン／目指す地域像

明るく 楽しく ささえあう 長生きが幸せにつながる まちづくり



協議体の特徴や雰囲気

毎回冒頭に、その月に行われた第1層協議体会議の報告を、参加したメンバーや高齢者あんしんセンターの職員が行っています。また、現在進行中のベンチの製作・設置活動の進捗状況の報告を行います。協議する中で「それは俺がやるよ!」や「私、知り合いがいるよ!」と言った声がメンバーから挙がります。また、地域の情報や他団体の様子について聞くことができる機会となっています。

周知

【目的】協議体の紹介、活動状況報告など

【方法】チラシの全戸配布や回覧、説明会

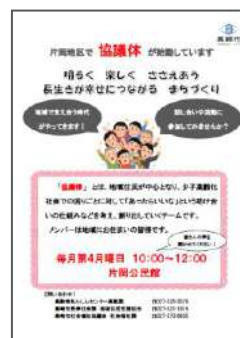
【対象】地域の役員、地域在住の幅広い世代

【時期】全戸配布 H29.9 回覧 H30.6 R1.6 R1.9

【結果】チラシ「ささえあい瓦版」の配布や回覧によって、協議体の紹介やアンケート結果の報告、また、支え合いサポーター養成講座のお知らせを行いました。地域住民からの反応が薄いという声も聞かれました。また、地域の区長や民生委員等の役員の方や団体にも協議体について説明しましたが、他の類似活動との違いについての説明に苦慮することもありました。しかし、ベンチの作製・設置活動や、地道な周知活動を継続していく中で、「ささえあい瓦版」読んだよ。ウチの前にベンチ置いてください」と言ったお電話をいただけるようになりました。

活動の経過

H28.9	片岡地区協議体発足 ・2回の“おおづかみ勉強会”を経て、12人のメンバーで発足しました。
H28.11	スローガン決定 ・スローガン「明るく楽しくささえあう長生きが幸せにつながるまちづくり」 ・町内別人口構成と推移についての分析を行いました。
H28.12~ H29.2	地域資源一覧表・マップ作成 ・「集まる場所」「病医院、薬局」「買い物」「バス路線、バス停」のリストアップとマッピング作業を行いました。
H29.9 H30.2~ H30.3	協議体発足チラシ作成・全戸配布 「あったらいいなアンケート」実施 ・いきいきサロン等で「あったらいいなアンケート」を実施し、ニーズの集約を行いました。ベンチ設置希望が多数ありました。
H30.6	周知チラシ第1回目の“ささえあい瓦版”作成・回覧
H30.9	第2回目“ささえあい瓦版”作成・回覧 ・地域支え合いサポーター養成講座周知チラシを作成しました。
H30.10	地域支え合いサポーター養成講座実施
R1.5	スーパーとりせんにベンチ設置
R1.6	第3回目“ささえあい瓦版”作成・回覧 ・ベンチ設置場所、作製者、材料提供者の情報を募集しました。
R1.9	第4回目“ささえあい瓦版”作成・回覧



ニーズ把握

【目的】 支え合い活動に結び付けるため

【方法】 「あったらいいなアンケート」の実施

【対象】 石原町西1福祉協力員、いきいきサロン参加者

【時期】 H30.2～H30.3

【結果】 石原町西1福祉協力員、いきいきサロン参加者を対象に、メンバーとあんしんセンターが協力し、アンケートを実施しました。ごみ出し、買い物、居場所、ベンチ、バスの本数増加、見守り、声かけについての希望が寄せられました。



社会資源の把握

【目的】 集まる場所、病医院、薬局、買い物、バス路線、バス停についてメンバーで共有するため

【方法】 地図にシールと付箋を貼り、資源名を書き込みリスト化

【時期】 H28.12～H29.2

【結果】 生活に必要な資源を視覚化することで、地域の把握ができました。



生まれた支え合い活動

「あったらいいなアンケート」の結果から、「ベンチ作りや設置場所を探すことは自分たちでできそう」と、ベンチの設置に向けた活動を始めました。メンバーの

メッセージ、PRしたいこと

片岡地区では、地域の方が買い物や散歩の途中に休むことのできる場所、ちょっとお話のできる居場所として、地域内各所にベンチを設置する活動を展開しています。また、ベンチも物作りの得意な人、材料を提供してくださる人、ベンチの敷地内設置に協力してくださる人、交渉・調整をしてくださる人等、様々な人の“つながり”によって生み出されたものであり、その“つながり”は地域の「宝」です。

つながりで作成できる人を見つけたり、商工会でベンチ作成のための予算を確保してもらうことができました。買い物途中の休憩場所や居場所として、地区内8カ所に「片岡地区協議体」のロゴの入ったベンチが設置されており、地域住民の方がベンチに座りバスを待つ姿が時折見られます。



担い手の養成

【目的】 仲間を増やし、できることを探す

【方法】 協議体と市の共催で、地域支え合いサポーター養成講座を実施。

【対象】 チラシ回覧とメンバーの声掛けで集まった人

【時期】 H30.10 地域支え合いサポーター養成講座

【結果】 16人の参加者のうち、13人が地域支え合いサポーターに登録しました。同年12月に協議体メンバーとサポーターの顔合わせ会を開催しました。

地域の困りごとや自分たちのできることにについて情報共有したり、既存の居場所の手伝いができる人を募りました。



群馬地区協議体

(愛称) なのはな協議体

地域：金古・金古南・上郊小学校区
 人口：16,925人 高齢化率：27.70%
 発足時期：H28.7 メンバー数：14人
 開催日時：第2金曜 18:30～20:30
 場所：群馬福祉会館

スローガン／目指す地域像

多世代が交流できるふれあいのあるまち

～気軽につかず離れずおせっかい～



RI.7	周知活動のためにビブスを着用し地域をウォーキング 足門29区にてごみ出し支援実施
RI.8	さくら協議体と情報交換会開催
RI.9	メンバー内で協議体の役割について勉強会
RI.10	金古王塚地区支え合い活動勉強会開催 協議体周知チラシ作成 福祉ふれあいまつり・ニ之沢夢実祭にて周知活動 「ふくしガイドブック」完成・配布

活動の経過

H28.7	ぐんまなのはな協議体発足
H28.10	スローガン決定
H28.12	バス停のマッピング、ぐるりんバス路線のマーキングを行う
H29.1	ぐるりんバス乗車体験
H29.2	高崎市地域交通課の担当者より群馬地域の公共交通体系・ぐるりんバスの現状説明を受ける
H29.9～11	ニーズ調査（アンケート実施）
H30.5	協議体周知ポスターを地域に掲示 さくら協議体と情報交換会開催
H30.7	新メンバー加入に伴い勉強会開催
H30.8	元高崎市地域交通課の担当者より現在の公共交通体系・ぐるりんバスについて説明を受ける 周知活動のためビブス購入（自費） 地域商店にて買い物支援活動を行う
H30.10	福祉ふれあいまつりにて周知活動 なのはな協議体たより発行（回覧にて周知） 地域の社会資源調査開始
RI.4	NPO法人わんだふる赤羽さんの活動 地域防災、買い物ボランティアについての講話
RI.6	ケアマネジャー・民生委員に困りごとアンケート実施

協議体の特徴や雰囲気

方向性が分からなくなった時には原点にかえり「第2層協議体の役割」について勉強会を行っています。それぞれが、様々なアイデアを出し合い、助け合い活動実施に向け検討を重ねています。金古王塚地区では町内活動が活発に行われているため、その活動状況を共有し、他の地域に広げられるように話し合っています。

周知

【目的】協議体活動を知ってもらう
 【方法】ポスター、回覧、チラシ配布、地域勉強会、ビブスを着用しウォーキング
 【対象】区長・嘱託員、民生委員などの地域役員、地域ボランティア団体、地域住民
 【時期】H30.5 H30.8 H30.10 RI.7 RI.8 RI.10
 【結果】ポスター掲示や回覧、チラシ配布、勉強会を開催したことで、地域の困りごとについて話し合いを行う町内が生まれました。また、高齢者あんしんセンター主催の区長・嘱託員、民生委員交流会にて協議体についての勉強会を開催したことで、「大切な事だと認識し、協議体を見学したい。」「うちの地域でも勉強会をしてほしい。」「町内の活動に協力してほしい。」などの声が聞かれるようになりました。



ニーズ把握

- 【目的】 地域の高齢者が何に困っているか知る
- 【方法】 アンケート
- 【対象】 地域の65歳以上の方
- 【時期】 ①H29.9~10 ②R1.6
- 【結果】 ①いきいきサロン、運動教室に参加している方や、独居の高齢者等にメンバーが直接声をかけアンケートを行いました。今困っている方は少なかったですが、運転できなくなった場合の通院や、買い物等の交通手段に困るという結果でした。
- ②ごみ出しや草むしり、集いの場、見守りや話し相手など、介護保険サービスだけでは賅いきれない小さな困りごとがたくさんあることがわかりました。

社会資源の把握

- 【目的】 地域の高齢者の困りごとに対して必要な社会資源がどのくらいあるのかを知る
- 【方法】 メンバーからの情報収集、地域福祉関係者への情報提供依頼・聞き取り
- 【対象】 第2層メンバー、福祉関係者
- 【時期】 H30.10~
- 【結果】 社会資源把握方法や、記載内容の確認、把握できた社会資源の活用方法について会議を重ね、福祉ガイドブックが完成しました。現在、地域の公民館、区長・嘱託員、民生委員等に配布しました。

担い手の養成

- 【目的】 ごみ出し、安否確認、見守り活動やお掃除などの支え合い活動が出来る人を増やし、現在活動している支援の幅を広げる
- 【方法】 回覧、チラシ配布、勉強会開催
- 【対象】 地域住民、地域ボランティア団体、育成会、長寿会、民生委員など
- 【時期】 R1.7~10
- 【結果】 地域の幅広い世代にチラシの配布、町内において回覧、各種サークル、ボランティア団体へ声掛けなどを繰り返し行い、現在や今後の超高齢社会の現状や課題について、勉強会を開催しました。その結果、担い手として女性22名の登録がありました。現在は困りごとを支える活動に向けて、内容の検討をすすめています。今後、若い世代の担い手を増やすため、育成会において勉強会を開催する予定です。



メッセージ、PRしたいこと

地域のみなさん、あなたの力を社会貢献に使いませんか？

ぐんまなのほな協議体は、地域住民が自分の住む地域が「こうなったらいいよね」という思いで話し合い、その実現に向けて取り組みを考える場所です。一緒に活動してくれる人を募集しています。

あなたのチカラが必要です！

群馬地区協議体

(愛称) さくら協議体

地域：国府・堤ヶ岡・桜山小学校区

人口：25,527人 高齢化率：21.81%

発足時期：H28.7 メンバー数：28人

開催日時：第3火曜 18:30～20:00

場所：群馬福祉会館

スローガン／目指す地域像

多世代の交流があり、地域で支え合うまち

～多世代の世話人が集い、隣近所を助け合う地域づくり～



協議体の特徴や雰囲気

多世代が住みやすいまちづくりについて「こうなったらいいよね」という思いで意見交換しています。既に立ち上がっている2つの地域(中泉・菅谷)の活動を共有しています。誰でも発言できる雰囲気、世間話から情報共有したり、新たな発見に繋がることもあります。

周知

【目的】協議体周知と担い手募集のため

【方法】チラシ配布とパネル展示

【対象】「福祉ふれあいまつり」の参加者

【時期】R1.10

【結果】協議体発足後、3年目にして初めての周知活動を行いました。世代や地域は限定せず、お祭り来場者にチラシを配布し、展示ブースでの説明を行いました。展示ブースで説明を聞いた方は「こういう時代になってきた」「そういう取り組みは大事」などの声が多く聞かれました。一方、多くの方からは「協議体って何？」と質問を受けることが多く、これからも周知活動をしていく必要性を感じました。今後は公民館に周知チラシを置かせていただき、また、回覧でも周知をしていく予定です。

活動の経過

H28.7	さくら協議体発足
H28.9	サブタイトル決定
H29.4	地域間交流仲間づくりのお花見会開催 ・お花見をしながら支え合い勉強会を実施し、協議会メンバーを募集。28人登録
H29.6	菅谷を居場所モデル地区として選定
H29.7	中泉町内で危険物収集支援を開始
H29.11	モデル地区菅谷にて第1回「すがやの集い」開催 ・参加者に向け居場所や困りごとについてのアンケートを実施しました。
H29.11	中泉に「4区の縁側」の居場所が立ち上がる
H30.2	第2回「すがやの集い」開催
H30.6	第3回「すがやの集い」開催
H30.6	菅谷地区でサポーター養成のための勉強会を開催
H30.10	菅谷地区で居場所が立ち上がる ・困りごとアンケートの実施、集計しました。
R1.9	福祉ふれあいまつりに参加 ・パネル展示とチラシ配布をしながら周知活動を行いました。



ニーズ把握

【目的】 地域の高齢者の困りごとを把握するため

【方法】 メンバーがアンケートを配布、回収して実施

【対象】 いきいきサロンや体操教室等の参加者
(60～90歳代を対象)

【時期】 H30.10～

【結果】 アンケートの結果、どの世代でも草むしりは困っていることがわかりました。年齢が上がるほど、買い物や掃除、ごみ出しや電球交換等の困りごとが多くなる傾向があります。このアンケートだけでは、困りごとの程度が分からず、草むしりはどのくらいの面積なのか、ごみ出しはどの段階で困っているのかが不明確でした。居場所がさかんな地域でも話し相手を求めており、人と関わることはどの世代になっても共通のニーズであることを再確認しました。

生まれた支え合い活動

新たに居場所が2ヶ所立ち上がりました。地域からの声で立ち上がった中泉区と、2層協議体のモデル地区として立ち上がった菅谷区。菅谷区は2ヶ月に1回開催し、中泉区は、毎月第1水曜日に開催しています。

どちらも多世代交流ができるよう工夫しながら、継続的に活動をしています。回数を重ねることで顔なじみになり、世間話をしながら困りごとの相談に繋がることもあります。ごみ出し(危険物)や古新聞収集等の支え合い活動が生まれています。

居場所の参加を呼び掛けるには、回覧より、近所の顔見知りの方から誘われた方が気軽に足が向くようです。「顔の見える関係性が大切」であることが協議体では話されています。



担い手の養成

【目的】 菅谷区の居場所を継続していくため

【方法】 生活支援コーディネーターによる勉強会

【対象】 菅谷区の協議体メンバーが声かけした方

【時期】 H30.6

【結果】 地域の環境係や育成会や体協等の役員を含めた13人の方へ地域づくりの勉強会を行いました。国の方針や現状を理解したうえで、今後は菅谷区の居場所の活動に協力していただけることになりました。子育て中の父母からは、「日頃から地域や多世代間で関わりが持てることで、安心して子育てができる」と前向きな発言がありました。今後、地域支え合いサポーター養成講座を予定しています。

『協議体』とは…日常生活で「おれごとだなお〜」と悩んでいることを、地域住民が中心となり、行政・社協・社会福祉法人等と一緒に「支え合い」を考えていくチームです。さくら協議体は、～多世代の世話人が集い、近所を助け合う地域づくり～を目指しています。皆さまの困りごとを聞かせてください。

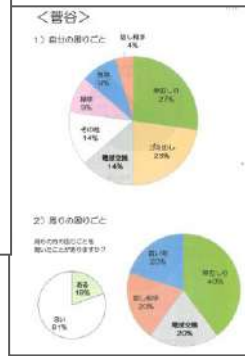
困りごとアンケート (該当する番号に○をつけてください)

性別 男・女 年代 ①60代 ②70代 ③80代 ④90代 地区 ()

1) ご自身の困りごとについてお尋ねいたします。
こちらから予想される困りごとがありますか? (複数選択可)
1:ごみ出し 2:草むしり 3:電球交換 4:話し相手 5:掃除 6:買い物
7:その他 ()

2) 困りごとのことについてお尋ねいたします。
地域の知り合いの困りごとを聞いたことがありますか? (複数選択可)
1:あり 2:なし
「あり」と答えた方は、下記からお選びください。
1:ごみ出し 2:草むしり 3:電球交換 4:話し相手 5:掃除 6:買い物
7:その他 ()

事務局さくら協議体



社会資源の把握

【目的】 活動できる場所や既存団体について把握し、モデル地区を選出するため

【方法】 ①2層協議体メンバーの活動状況を確認
②公民館や集会所の情報収集

【対象】 2層協議体メンバーと地域住民

【時期】 H29.5～7

【結果】 現在公民館等を利用して活動している団体名や活動内容、開催頻度について情報共有し、その他、地域の各団体がどのような関わりをしているのかを知ることができました。

多くの地域では年間行事において、世代間交流が図れるよう工夫していました。地域によっては敬老事業の品物を個別訪問し、手渡ししながら本人の近況を確認している地域もありました。

その他、既存の活動を活かすことができるのか、そのためにはどうしたらよいのかを話し合いました。

メッセージ、PRしたいこと

つながる気になるご近所さん!!

居場所づくりから支え合う地域づくりを目指す!

みんなが集う居場所をもっと増やしたい!!



榛名地区協議体

地域：榛名地域

人口：19,137人 高齢化率：34.79%

発足時期：H28.6 メンバー数：23人

開催日時：毎月最終月曜 13:30～15:30

場所：榛名支所 4階会議室

スローガン／目指す地域像

ほっとかないよ 笑顔が広がる榛名の地 ～気かけ声かけ支えあう～



協議体の特徴や雰囲気

地理的に広い範囲を対象とする榛名地区協議体では、地域間の情報共有が欠かせません。協議体では毎回「地域情報の共有」として、1か月間の地域での出来事や新たな活動の構想などをメンバー同士共有しています。また、既存活動のリーダー的な役割を担っているメンバーが多いのも榛名地区協議体の特徴です。第2層としての取り組みについて毎回議論を重ねています。

活動の経過

H28.6	榛名地区協議体発足
H28.8	めざす地域像からスローガン決定
H28.10	買物困難地域の把握 移動販売車への声掛け
H29.7	榛名地区内のいきいきサロンのマッピング
H30.1	榛名地区協議体チラシ発行
H30.3	他地区の居場所見学 ぐるりんバスへの試乗体験
H30.4	居場所「あしたば」スタート 居場所「誰かいるかい」スタート ・榛名地区初の居場所が、2箇所同時に開始しました。
H30.5	高齢者の移動手段について情報整理
H30.6～7	移動手段に関する行政との意見交換
H30.10	居場所「さかみちよりみち」スタート
H31.3	榛名梅祭り参加、アンケート実施 ・約100名の方からアンケートをいただくことができました。
RI.6	他自治体のデマンド交通について報告
RI.7	榛名地区の移動手段について意見交換
RI.10	路線バスの活用に向けた意見交換

周知

【目的】協議体の活動内容を知ってもらう

【方法】チラシを全戸配布

【対象】榛名地区地域住民

【時期】H30.1

【結果】榛名地区協議体としては初めてのチラシ作成。協議体活動をできるだけわかりやすく伝えることを目指し、チラシの構成をメンバー全員で話し合いました。チラシの作成を通じて、メンバー自身が協議体活動の主旨を再確認できた、これまでの成果を目に見える形で示すことができたなど、第2層活動の活性化にもつながりました。また、継続的な周知活動の必要性から、H31.3には榛名梅祭りに協議体ブースを出店しました。来場者からのアンケート調査後、新たな第2層メンバーが加わりました。



ニーズ把握

【目的】高齢者は何に困っているかを知る

【方法】①地域のイベント（梅祭り）でのアンケート
②いきいきサロン・居場所からの報告

【対象】①イベント来場者（不特定多数）
②いきいきサロン・居場所の参加者

【時期】①H31.3 ②随時

【結果】①紙面による初めてのアンケートで、協議体の認知度が低いことがわかりました。その一方で地域での支え合いの必要性を感じている人が多いことなどを知ることができました。

②高齢者の方々が多く集まる慣れ親しんだ居場所やいきいきサロンで、会話の中から生活の中での心配ごとや困りごとが聞かれ、結果、支援に結びつけることができたケースも生まれています。

社会資源の把握

【目的】日常生活に必要な施設（榛名支所・スーパー・高崎駅）までの行き方の把握

【方法】メンバーによる路線図の活用
グループワーク

【時期】R1.10

【結果】路線図と時刻表・料金表を使って、目的地までのバスの乗り方を確認することができました。



【メンバーによる話し合いの様子】

生まれた支え合い活動

【3つの居場所☆誕生】

あしたば：「近くでおしゃべりする場所が欲しい。杖について押し車で誘い合っている場がほしい。」と、近隣住民からの要望で設立しました。地域のボランティアも協力的で、生きがいつくりや助け合いになっています。



毎週水曜日 13:00-16:00・代表宅（高浜中西部）

誰かいるかい：一昔前まで、縁側から「誰かいるかい」と、声を掛けると、「寄っとくれ」という返事が返ってきたものです。「懐かしいあの頃のように、みんなが気楽に立ち寄れる場所があったらいいなあ」という思いから開設に至りました。モットーは「みんなが主役」。できることはみんなで協力して、おおらかに、仲良く行動できる場でありたい。楽しく朗らかに悩みも相談できる集いです。



毎週木曜日 9:00-12:00・高浜交流館

さかみちよりみち：「坂上地域の地名を取り入れ、寄り道しながらおしゃべりしよう」、「気楽に立ち寄れる場所があったらいいなあ」という思いで開設し、支え合いながら楽しく交流しています。



毎週月曜日 13:30-16:30・坂上住民センター

メッセージ、PRしたいこと

水と緑が自慢の榛名、特産品の梨と梅は天下一品です。

優しい人々と豊かな自然環境に囲まれながら、榛名地区では居場所を拠点とした支え合い活動が、少しずつ始まっています。なじみの関係の中、お互いに困りごとを話し合えるつながりは、榛名地区協議体が目指す地域像そのもの。「ほっとかないよ、笑顔が広がる榛名の地」気かけ声かけ支えあえる地域を目指し、榛名地区協議体は今月も活動中です。

倉渚地区協議体

(愛称) くらぶち協議体

地域：倉渚地域

人口：3,339人 高齢化率：46.45%

発足時期：H28.10 メンバー数：20人

開催日時：第4木曜 17:00~18:30

場所：倉渚公民館

スローガン／目指す地域像

あんじゃあねえ 自然と共に 担い手志願



協議体の特徴や雰囲気

メンバー一人ひとりが、穏やかで楽しい雰囲気の中、地域の最新の情報や各区内での活動、課題等を出し合い、情報共有しています。

話がまとまらないこともあります。自由な発想で意見を出すことができるため、新たな発見や今後の活動へのヒントが見つかることもあります。

活動の経過

H28.10	<p><u>倉渚地区協議体発足</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・6回の勉強会を経て、10人のメンバーで発足しました。 <p><u>スローガン決定</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバー同士で意見を出し合い、自然も活かした助け合い活動を行いたいという思いを込めました。
H29.7	<p><u>安心連絡メモ倉渚バージョン作成の検討</u></p> <p>一人暮らしの高齢者に活用してもらうために検討。イラストは茗荷がいいのではないかと話し合い。(現在検討中)</p>
H30.8	<p><u>周知チラシを作成・全戸配布</u></p>
H30.11	<p><u>文化祭(やまなみ祭)に参加</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・17の方が支え合い活動に協力できると回答してくださいました。 ・血圧測定、血管年齢測定、周知チラシの配布を行い、協議体のPRを行いました。
R1.5	<p><u>地域別課題検討会議に協議体メンバー参加</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・通院困難者について検討 ・倉渚の移動困難者について、協議体で話し合いを行いました。
R1.8	<p><u>社会資源マップの作成開始</u></p>
R1.11	<p><u>文化祭(やまなみ祭)に参加</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・47の方が支え合い活動に協力できると回答してくださいました。 ・握力測定、血管年齢測定、周知チラシの配布を行い、協議体のPRを行いました。

周知

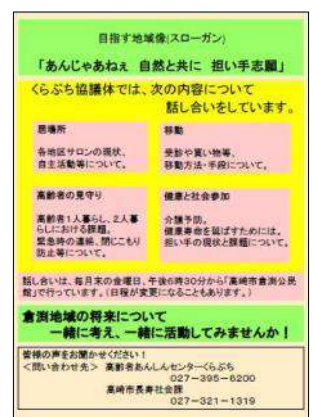
【目的】協議体や支え合いの活動を知ってもらう

【方法】チラシの作成、全戸配布、いきいきサロンやメンバーの自主活動での説明、やまなみ祭での説明

【対象】地域住民、区長・民生委員等の地域の役員、やまなみ祭参加者

【時期】H30.11~

【結果】一人でも多くの人に読んでもらいたく、チラシを作成し、全戸配布しました。



いきいきサロンで第2層協議体メンバーがチラシを用いて協議体の説明をしました。

やまなみ祭では、第2層協議体のブースを設置し、血管年齢測定や血圧測定、握力測定を行いながら、協議体の説明をしました。初めて協議体の名前を聞く人もいましたが、1対1で説明を行ったので、多くの方に知っていただくことができました。

ニーズ把握

【目的】 高齢者が何に困っているのか知る

【方法】 地域別課題検討会議、メンバーからの聞き取り、やまなみ祭でアンケート実施

【対象】 ケアマネジャー、ひとり暮らしの高齢者ならびに高齢者のみの世帯の方など、やまなみ祭参加者

【時期】 H31.5 R1.9

【結果】 地域別課題検討会議にメンバーが参加し、ケアマネジャーの情報などから、移動手段がなく、倉渕地域外への受診に困っている人がいることがわかりました。

メンバーからの聞き取りで、ごみ出しの分別方法や冬期に水道やボイラーなどが凍結した時の連絡先、対応方法に不安になる方がいることもわかりました。

R1.11、やまなみ祭の参加者に困りごと把握のアンケートを実施しました。回答者は、121人。困りごととして1位「通院」2位「買い物・相談者がいない」3位「見守り」の結果が出ました。



社会資源の把握に向けて

現在、日常生活に必要な社会資源を把握するために、その方法を検討しています。やまなみ祭で行ったアンケート調査の結果から、困りごとを支える社会資源について把握する予定です。

生まれた支え合い活動

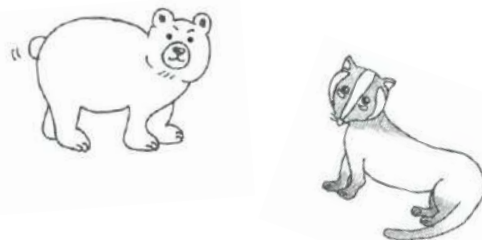
隣同士、顔の見える関係ができてきている地域なので、「倉渕は、もともと助け合いの活動はできているよね」という声がよく聞かれます。

その中で、地域別課題検討会議にメンバーが参加したことをきっかけに、移動支援の必要性を感じました。NOP法人で行っている「福祉有償運送」の仕組みを使い、移送サービス運転ボランティアが3人できました。



今後の活動

やまなみ祭で協議体につながりたいと回答していただいた方がH31では17人、R1では47人いました。まだ、担い手の養成にはつながっていませんが、今後は、地域のつながりを大切に、支え合いの活動を広げていきたいと思っています。



メッセージ、PRしたいこと

倉渕地区は、緑に囲まれていて空気や水のきれいな地域です。高齢化率は高崎一番で支える人も支えられる人も高齢化が進んでいます。お互いを思いやる気持ちを大切に、年齢を重ねてもいつまでも元気に倉渕で生活できるよう協議体では話し合いを進めています。若い人の参加もお待ちしています。

南八幡地区協議体

地域：南八幡小学校区

人口：6,683人 高齢化率：31.92%

発足時期：H29.1 メンバー数：12人

開催日時：第3月曜 10:00～11:30

場所：南八幡公民館

スローガン／目指す地域像

昔から未来へ世界へ 私もがんばる千年村 ～お隣さんを気にかけて 安心・安全・健康地域～



協議体の特徴や雰囲気

発足からもうすぐで丸3年が経ちますが、南八幡地区のペースで、じっくり、大事に、ここまで進んできました。そのかいあってメンバー間のチームワークは抜群です。会議も、笑いの絶えない和やかな雰囲気でもいつも進んでいます。そう！常に「笑顔」があるのが南八幡地区協議体の一番の自慢です。この明るく楽しい雰囲気を、そのまま地域のつながりや支援に活かしていけるよう日々みんなで考えています。

活動の経過

H29.1	<u>南八幡地区協議体発足</u> 4回の勉強会を経て、11人のメンバーで始まりました。発足と同時にスローガンも決まりました。
H29.4	<u>地域資源把握のマップ作り</u> 「まずは地図を使って地域を知ろう！」という目的で資源マップづくりを行いました。
H29.10	<u>視覚障害者の疑似体験実施</u> 「第63回全国盲女性研修大会」にボランティアとして参加されたメンバーの方々からの報告がきっかけとなり開催しました。
H30.4・9	<u>新たなメンバーが参加</u>
H30.11	<u>「支え合いカフェ」開催（1回目）</u> 以前からメンバー間で出ている「つながれる居場所」を作りたい！との思いから開催しました。
RI.10	<u>「支え合いカフェ」開催（2回目）</u> 前回よりも参加者が増えました！アンケートを取りニーズ把握を行いました。

周知

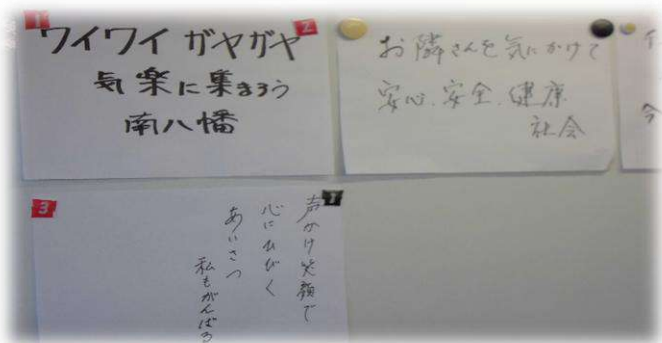
【目的】「地域でつながっていきたい」という思いを伝える

【方法】「支え合いカフェ」開催時に説明

【対象】地域住民全般

【時期】H30.11 RI.10

【結果】南八幡地区協議体では、協議体周知を目的としたチラシ作成はまだ行っていません。メンバーがわからないものを周知できないという思いがずっとあったからです。ですが、「支え合いカフェ」で、出来るだけ自分達の言葉で直接みなさんに「つながろう」という思いを伝えました。まだまだですが、少しずつ、始まりました。



ニーズ把握

- 【目的】この地域の困りごとは何なのかを探る
【方法】支え合いカフェでアンケート調査
【対象】地域住民全般（カフェ参加者）
【時期】R1.10
【結果】まだ回収数は少ないですが、話し相手がほしいというニーズと支援のマッチングの可能性も見えてきました。



生まれた支え合い活動

まだ具体的な活動は始まっていませんが、今年初めて行った地域のアンケート調査の結果も考慮しつつ、これから協議体メンバー間でアイデアを出し合い検討していく予定です。



社会資源の把握

- 【目的】日常生活をおくるうえで、必要な地域の施設を把握
【方法】地図にシール・付箋を貼りマッピング
【時期】H29.4 H29.5
【結果】地域の公的施設や地域住民が集っている場所等の確認を行いました。その結果「自然と人が集まっている場所は中心的に動いている人がいる」等がわかりました。



担い手の養成

新たな担い手の養成は行っていませんが、この地域での頼りになる「おせっかいさん」の把握は徐々にできてきました。

今後は、「おせっかいさん」と地域のニーズをどう繋げていけるか、メンバー全員で検討しているところです。



メッセージ、PRしたいこと

この地区には「上野三碑」のうちの二碑（山上碑・金井沢碑）があり、昔から上野三碑と共に育まれた「誇り」と「地域愛」、それを軸にお互いを「支え合う・見守りあう風土」が今も息づいています。だからこそ、「千年村」という言葉を用い、「この風土は昔から今へ未来へとつながっている、これからもつなげて行こう！」という思いをスローガンに込めました。この南八幡地区の風土を最大限活かせるような協議体活動を目指しています！

中央・南・城南地区協議体

(愛称) 高松協議体

地域：中央・南・城南小学校区
 人口：12,570人 高齢化率：29.39%
 発足時期：H28.10 メンバー数：17人
 開催日時：第4金曜 13:30~15:30
 場所：中央コミュニティ消防センター

スローガン／目指す地域像

平成28年12月～模索中 但し スローガンはなくても 心はみんな一緒です



協議体の特徴や雰囲気

毎回、会議の中で地域の情報交換をしています。情報交換は、協議体メンバーに区長や民生委員が多いため、3小学校区と広い範囲ですが、様々な地域情報が行き交います。昔からの顔見知りが多いので、冗談を言いながら、明るい雰囲気です。

皆さんが、協議体活動を自分の将来に必要なことと考え、ゆっくりではありますが、着実に支えあいの輪を広げています。

活動の経過

H28.6	「生活支援サービス体制に向けた説明会」 高崎市役所にて開催し住民52人が参加
H28.10	高松協議体発足 メンバーの「勉強会より、協議体の会議と言う方が外出ししやすいから立ち上げよう！」との言葉に賛同し協議体発足
H29.6	周知のチラシを全戸配布 チラシは皆で意見を出しあい、つくり上げました。公民館やシルバーセンター、お店、施設など、分担してチラシの説明と掲示をお願いしてまわりました。
H30.3	「ゲームとお茶を楽しもう会」開催 場所：電気館と城址公民館の2か所で同時開催！その後、場所を以下に変更
H30.7	「ゲームとお茶を楽しもう会」開催 場所：中央コミュニティ消防センター 毎月第3木曜 城南公民館 奇数月第3木曜
H30.7	「ゲームとお茶を楽しもう会」追加開催 場所：喫茶去 ^{きっさこ} 艸庵 ^{そうあん} 定休日を利用し開催 毎月第2水曜

周知

【目的】協議体が発足したことを知ってもらう

【方法】区長会・民生児童委員定例会・シルバーセンター・事業所への説明、チラシの全戸配布、町内掲示板

【対象】地域の全世代

【時期】H29.6

【結果】協議体発足の前に、市役所で「生活支援サービスに向けた説明会」を行いました。住民のほか、区長、民生委員、弁護士、事業所職員など多くの方が参加し、関心の高さを感じました。その後、公民館での勉強会を経て高松協議体が発足しました。

協議体発足の周知チラシは、7,000枚を全戸配布しました。また、メンバーで分担し、公民館や交流館、シルバーセンター、子育て支援センター、介護事業所、地域のケアマネジャー、小・中学校等へ説明をして回りました。連絡があった場合に備え「相談問い合わせ票」を作りましたが、問い合わせは数件でした。



ニーズ把握

【目的】生活の困りごとを知る

【方法】「ゲームとお茶を楽しもう会」参加者にアンケートや聞き取りをする。

【対象】参加者

【時期】「ゲームとお茶を楽しもう会」開催時

【結果】「現状困りごとはないが、協議体の説明を聞くと将来に漠然とした不安はある」「支え合える地域になっていければという思いはある」という意見が聞かれました。それならば、「元気な時からつながりあって、困ったことを気軽に語り合える、通いの場を地域にたくさん作ろう!!」という今後の取り組みの方向性が決まりました。

社会資源の把握

【目的】日常生活に必要な公共機関やお店、銀行、病院がどこにあるのかを知る

【方法】色別、施設別のマッピング

【時期】協議体発足後から繰り返し行う。

【結果】施設や店種別にマッピングを繰り返し、地域の情報を集めた結果、地域情報を詳しく知ることができました。知らなかったことも多く、グループごとに会話が弾み、話題がそれてしまうこともありますが、最後はしっかりまとまります。



担い手の養成

【目的】「ゲームとお茶を楽しもう会」のお手伝いやそこで得られた困りごとへの支援が出来る仲間を増やしていく

【方法】①メンバーが、心当たりの人へ声をかけ、「ゲームとお茶を楽しもう会」のお手伝いを探す

②メンバーが、「ゲームとお茶を楽しもう会」に参加し、担い手の声掛けをする

【対象】参加者

【時期】毎回

【結果】担い手の養成までには至らず、メンバーが担っています。しかし、自分たちも楽しみながら「担い手にこだわらず、参加者もボランティアで来た人もできる人が一緒に運営をしていくのが居場所だよね!」と考えています。

生まれた支え合い活動

高齢者が誰でも参加できる「ゲームとお茶を楽しもう会」は、健康マージャンや囲碁、将棋もできます。男性も女性も楽しめます。ゲームを通して、初めての人でも馴染みやすくりピーターが増えています。もちろんお茶やお喋りだけの人、趣味の音楽について語る人もいます。「参加者が得意分野を披露し、教える側にも回るという場面があっても良いよね」と話しています。

場所はメンバーが探し出し、現在3ヶ所になりました。喫茶去 艸庵では、「絶メシ」掲載の老舗焙煎店のコーヒーの提供があり、それぞれ特徴があります。

中央地区	中央コミュニティ 消防センター	毎月	第3木曜
南地区	喫茶去 艸庵	奇数月	第3木曜
城南地区	城南公民館	毎月	第2水曜



メッセージ、PRしたいこと

3つの居場所で、「遊びたい」「喋りたい」「お茶したい」やっています!

岩鼻地区協議体

地域：岩鼻小学校区

人口：6,633人 高齢化率 29.65%

発足時期：H28.10 メンバー数：10人

開催日時：第3火曜 10:00～11:30

場所：高齢者あんしんセンターくろさわ岩鼻

スローガン／目指す地域像

あいさつで笑顔広がる町づくり



協議体の特徴や雰囲気

介護予防や認知症に関わる活動をされている方、ご家族を介護されている方、一人暮らし、高齢者世帯の方などがメンバーになっています。協議体メンバーとして、楽しみながらどんな活動ができるかを考えています。

穏やかで和やかな雰囲気の中、参加者一人ひとりが、地域の情報を発信し、共有しています。「こうなったら、もっと暮らし良くなる」「こんなことをしたら楽しかった」、「ここでこんな活動をしている、見学へ行こう」など前向きな意見が飛び交っています。

活動の経過

H28.8	第1回勉強会 46人参加。
H28.9	第2回勉強会 8人参加。
H28.10	岩鼻地区協議体発足 9人（地域住民）
H28.11	スローガン決定
H29.4～11	岩鼻地区商店等のマッピング作成 見える化することで地域の課題も見えてきました。
H29.10	協議体たより（1回目）
H30.3	アンケートについて検討を開始 岩鼻地区の現状を把握していくにはどうしたらよいか。困りごとをどうやって聞いていくのか。高齢者の集まりで聞く、アンケートをとって見たらどうか。
H30.5～6	困りごとアンケート聞き取り 困りごと一覧を作成
H30.12	「ぐるりんバス」乗車体験
R1.8	井野町の自主活動で行っている「カレーの会」の見学
R1.9	協議体たより「ほんわかだより」作成・回覧

周知

【目的】協議体とは 活動内容 メンバー募集

【方法】民生委員定例会にて説明。協議体の活動や、メンバー募集のチラシを回覧

【対象】岩鼻地域住民

【時期】H29.10 R1.9

【結果】協議体が発足し、2回お便りを作成し、回覧しました。便りの名前もメンバー皆で意見を出し合い、親しみやすい題名で「ほんわかだより」としました。



ニーズ把握

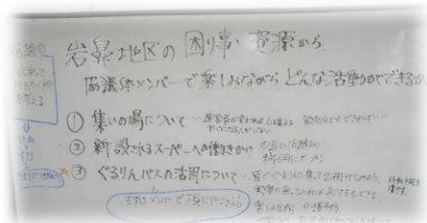
【目的】地域の困りごとが何かを知る

【方法】4 町内（いきいきサロンにて）困りごと聞き取りアンケート調査

【対象】65 歳以上のいきいきサロン参加者

【時期】H30.5～6

【結果】「車に乗れなくなったら困る」、「買い物や通院に困っている」、「タクシーはなかなか乗れない」、「ぐるりんバスを利用したいがバス停まで遠くて行けない」、など移動手段に不安を感じる人が多いことや、タクシーやバスなどの利便性に問題があることがわかりました。「歩いて行ける場所に新しくスーパーを建設しており、楽しみです」「月に一度いきいきサロンへ歩いていけなくなったら悲しい」など、率直な意見が多数ありました。一覧表にまとめ、協議体として何ができるか、取り組めるか考えました。



社会資源の把握

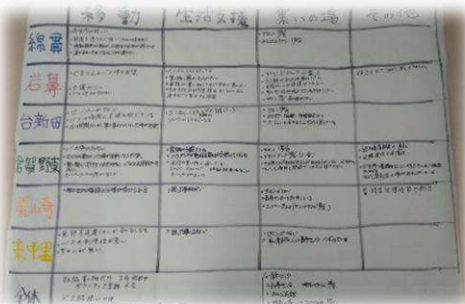
【目的】地域の社会資源を見える化する

【方法】地域資源のマッピング（商店、居場所、バス等）、ぐるりんバス乗車体験

【時期】H29～H30.1 H30.12

【結果】大きな地図に町内ごと境界線を引き、医療機関や商店、金融機関、集いの場、避難場所など色分けし、地図にシールを貼り付けました。ぐるりんのバス路線も追加しました。

ぐるりんバスは高崎駅西口へ行く路線がなく、市役所や高崎総合医療センターへ行くことができないこと、岩鼻地区北部には商店など何もないことや、



メッセージ、PRしたいこと

いつも笑いながら楽しく意見交換しています。ここが、私たちの居場所です！！

車で数分のよく利用するスーパーにはバス停がなく、車に乗れなくなったらどうなってしまうのかなど、マッピングすることで地域の課題が見えてきました。このことから、実際にぐるりんバスに乗車してみることにになりました。



既存の社会資源の活用

メンバーが、いきいきサロンでぐるりんバス乗車体験の話をし、後日、いきいきサロン参加者が隣組数人と一緒にぐるりんバスで出かけ、ホテルでランチをするなど、バスを利用した外出ができるようになりました。

「次回はもっと多くの方にも声をかけ、花見に行きたい」という意見もあがっています。

協議体の活動がきっかけとなり、楽しみながら、自分のため、人のために活動してくれる人が増えています。

担い手の養成に向けて

【目的】協議体メンバー、担い手を増やす。

【方法】普段の生活の中で、同じ思いの人がいれば、協議体を知ってもらえるよう一人ひとりメンバーが意識し声かけをします。地域のお祭りや、小学校のバザーや公民館・長寿センターのイベントなどでメンバーが周知活動する機会を作っていきます。

【対象】岩鼻地区住民

【結果】協議体たよりを回覧しただけでは、関心を持ってくれた人がわからず、新しいメンバーもなかなか増えないことがわかりました。区長や民生委員、役員の人たちにももっと協議体を知っていただき、岩鼻地区の方が集まるイベントなどを活用して周知活動をしていきたいと思ひます。

滝川・京ヶ島地区協議体

地域：滝川・京ヶ島小学校区
 人口：12,629人 高齢化率：28.59%
 発足時期：H29.4 メンバー数：16人
 開催日時：毎月最終月曜 14：00～15：30
 場所：京ヶ島コミュニティ消防センター

スローガン／目指す地域像

おたがいさま おかげさま 笑顔で支える滝川・京ヶ島
 ～エンジョイ オールドエイジ～



協議体の特徴や雰囲気

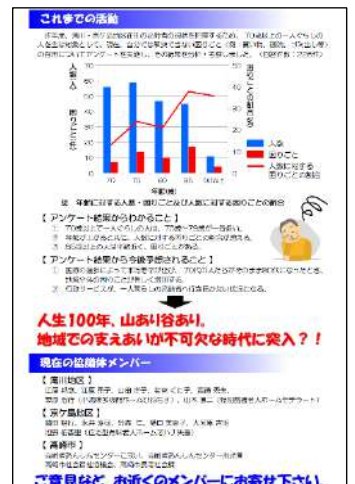
メンバーに若い世代の方や介護保険サービス事業所の職員が入っています。
 何かを決める時には十分な時間をかけ決めています。
 住み慣れた地域に対しての思いが半端ないです。話が脱線することもあります。笑顔が絶えません。

周知

- 【目的】協議体が発足したことを知ってもらう
- 【方法】区長会の説明、チラシの配布及び回覧
- 【対象】幅広い世代の地域住民
- 【時期】H30.4
- 【結果】チラシを滝川・京ヶ島地区に全戸配布しました。

活動の経過

H29.4	滝川・京ヶ島地区協議体発足 6回の勉強会を経て19人のメンバーで発足しました。
H29.4～8	「滝川・京ヶ島地区高齢者困りごとアンケート」実施 アンケート集計
H30.2	スローガン決定 意見を出し合いこんな町になって欲しいとの思いを込めました。
H30.3～8	周知チラシの作成、配布
H30.9 ～R1.5	マッピング 地域の困りごとと地域の社会資源をマッチングできるように社会資源情報のマッピングをしました。
R1.8	「傾聴」の講義を受講 「集まれる場所に来られる人はいいが来られない人のところには話を聞きに行くことも見守りになる」「話を聞くということはどういうことか」という意見があり講義の受講となりました。



ニーズ把握

【目的】 地域の高齢者の現状把握のため

【方法】 民生委員さんが実施する6.1調査時にアンケート調査を依頼

【対象】 70歳以上の一人暮らしの方

【時期】 H29.4

【結果】 70歳以上の一人暮らしの方は75～79歳が一番多い。年齢が上がると共に人数に対する困りごとの割合が増える。85歳以上の人は半数近く困りごとがあることがわかりました。



滝川・京ヶ島地区高齢者困りごとアンケート

記入日：平成 年 月 日

1. 世帯構成、生活環境についてお答えください。

世帯構成（一人暮らし・高齢者世帯・その他） 性別（男・女）
 年齢（65歳～74歳・75歳～84歳・85歳～89歳・90歳以上）
 地区（滝川・京ヶ島）
 住居の種類（ある・ない）
 役割（仕事・家事・農作業・趣味・その他）
 養老（ある・ない）
 ティータイム活動（している・していない）

2. 地域で生活をするうえで現在困っている事、今後困ると思われる事がありますか？ あてはまる事すべてに○をつけてください。

買い物 通院 移動手段 子ども 家事 食事
 その他（ ）

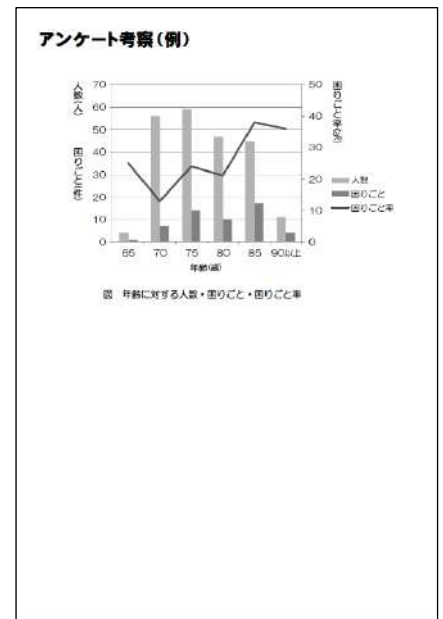
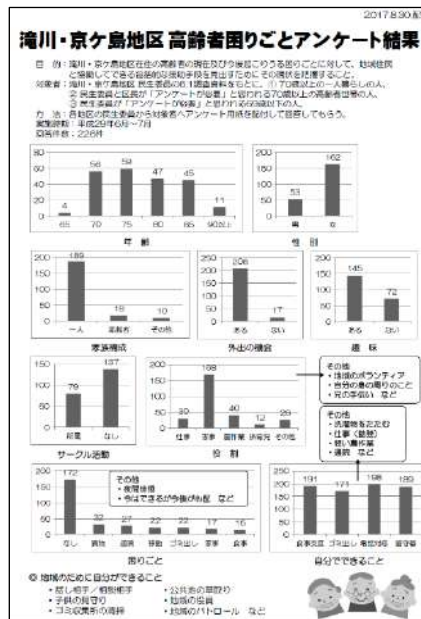
3. 今、できている事についてお答えください。

直轄の機関（福祉課、高齢福祉課、留守番）
 その他（ ）

4. 地域でまわりの方のために、ご自分ができそうなことはありますか？
 ご記入ください。

氏名： _____
 生年月日： 年 月 日 年齢： 歳
 住所： _____ 電話番： _____

アンケートより得た情報は、滝川・京ヶ島地区協議体活動のために使用します。
 ご協力ありがとうございます。



社会資源の把握

【目的】 地域の困りごとと社会資源をマッチングするため

【方法】 滝川・京ヶ島地区に地図に公共施設、飲食店、コンビニ等をマッピング

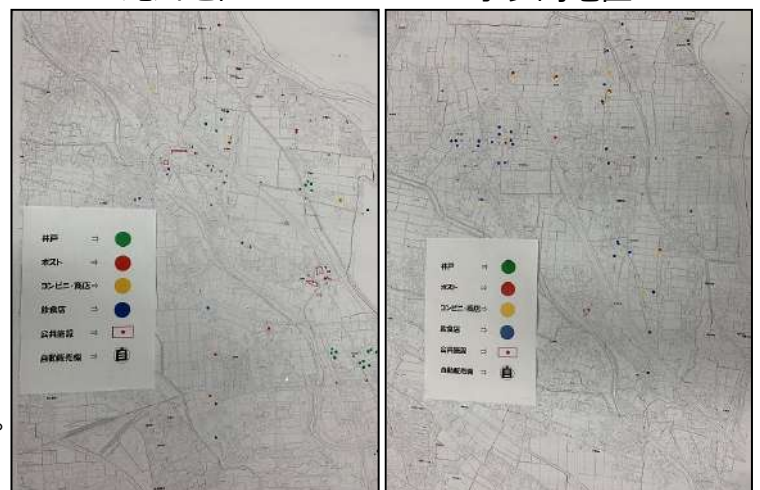
【対象】 地域で生活する一人暮らしの高齢者

【時期】 H30.9

【結果】 マッピングした内容は地域情報として活用することになりました。地域でつながりを持つことが大切だということを再認識しました。

滝川地区

京ヶ島地区



メッセージ、PRしたいこと

- ・来なくなる協議体
- ・行きつ戻りつしながらも、じっくり楽しく言いたいことを言っている協議体
- ・普段の生活の延長を生活支援の体制整備につなげる協議体

新高尾・中川地区協議体

地域：新高尾・中川小学校区
 人口：18,725人 高齢化率：26.60%
 発足時期：H29.1 メンバー数：11人
 開催日時：第3火曜 13:30～15:00
 場所：あつたかほ一むエビル一日高、中川公民館 2F

スローガン／目指す地域像



H30.7	<u>各いきいきサロンでニーズ把握</u> 各いきいきサロンを訪問しチラシを使って協議体の説明を行い、アンケートによりニーズ把握をしました。
RI.7	<u>他県の協議体説明DVDを鑑賞</u> 協議体の説明などを分かりやすくするためにメンバーで鑑賞しました。
RI.8	<u>アンケート分析</u> 各いきいきサロンを訪問し、協議体の説明を行い、ニーズ把握のためのアンケートの分析を行いました。
RI.9	<u>協議体活動報告チラシを作成</u> チラシを利用し、ニーズ把握のフィードバックと協議体の説明のためにいきいきサロンを訪問しました。

活動の経過

H29.1	<u>新高尾・中川地区協議体発足！！</u> 4回の勉強会を経て13人のメンバーで発足しました。
H29.2	<u>スローガン決定</u> さまざまな垣根をこえて、近所に頼る関係性を作って行きたいとの思いをこめました。
H29.6	<u>資源把握のためのマップを作成</u> 「本当に困っているのか？どう助け合えるか？」 ↓ まずは地域に協議体を知ってもらおう！！
H29.8	<u>チラシの作成開始</u> 地域で協議体が出来たこと、協議体とは何かをチラシを作成し知ってもらおう。 ・回覧内容を確認・区長説明 ・自分たちで協議体を勉強 ・どういったレイアウトにするか？ ・いつどのように回覧するか？ 他
H30.3	<u>チラシ完成！！4/15号に回覧</u> ↓ チラシの反応を確認

◎垣根をこえて第一号 (H30.4.15号 回覧)



協議体の特徴や雰囲気

毎回協議体の始めにアイスブレイクとして最近の自分の地域のことなどを報告し合っています。

また、協議体メンバーでランチ交流会などして親睦を深めてきました。二つの小学校がある協議体なので会議場所も二つの地域で交互に開催しています。



周知・ニーズ把握

【目的】協議体のことを地域の人に知ってもらう
また、困りごとや協議体に協力できる人を把握する。

【方法】各いきいきサロン訪問・説明、チラシを作成し回覧

【対象】新高尾・中川地区の住人
各いきいきサロン参加者

【時期】H30.4～

【結果】協議体の説明は一回だけでは難しいことがわかりました。「協議体のことをどう説明したらわかっていただけるか」「地域のニーズ把握の方法」「いきいきサロンに来ていない方達への周知をどうしていくか」などの課題が確認できました。

今後の活動

地域の皆さんに支え合いを広げ、協議体のことをさらに詳しく知ってもらうために、各いきいきサロンの訪問や周知チラシを作成し、周知とニーズ把握を充実させていきたいです。

社会資源の把握

【目的】自分たちの住んでいる地域でこういった社会資源があるか確認

【方法】地図にシールを貼りマッピング

【時期】H29.6

【結果】地域の社会資源が把握できました。協議体発足直後だったため、メンバー同士の緊張もほぐれ一気に雰囲気が良くなりました。

マッピングをもとに、周知活動を行うことになりました。



◎垣根をこえて第二号(予定)



メッセージ、PRしたいこと

わきあいあいと二つの地区が“垣根をこえて”活動しています！町民が垣根をこえて助け合い出来るようになればいいと思っています。大きな心と手を広げて待ってま～す。高崎市内住みたいまちランキング1位目指してがんばるぞ！！17号またがって手と手を取り合ってます。協議体が浸透するように頑張る！意気込みで意見が飛び交ってます。今後も地域に継続的な訪問を展開して具体的な情報交換をしていきたい。自分の地域をよりよくするために一生懸命です。

倉賀野地区協議体

地域：倉賀野小学校区
 人口：11,428人 高齢化率：30.17%
 発足時期：H28.12 メンバー数：24人
 開催日時：第4月曜 13：30～15：30
 場所：倉賀野公民館3階ホール

スローガン／目指す地域像

世代超え 楽しく暮らす 倉賀野宿



周知

- 【目的】協議体の発足を知ってもらう
- 【方法】区長会、長寿会、民生委員会への説明、チラシを全戸配布
- 【対象】倉賀野地区在住の方
- 【時期】H29.9
- 【結果】区長会議、長寿会会議、民生委員会議に参加して、資料をもとに支え合いの活動の必要性と協議体の発足の説明を行いました。他の活動との違いや住民目線での取り組みの方法などがわかりづらいようでしたが、繰り返し説明していくことで理解につながるのではないかと思います。

周知のチラシに町内会ごとにメンバーの名前を載せることで、身近に感じて声をかけてもらえるように工夫しました。



活動の経過

H28.12	倉賀野地区協議体発足
H29.3	社会資源マップ作成
H29.9	周知チラシ作成、全戸配布
H29.11	ニーズ調査
H30.5	倉賀野祭りにて協議体の周知、地域支え合いサポーター募集の呼びかけ
H30.8	第1回地域支え合いサポーター養成講座開催
H30.11	ごみ出し支援のルール作り
H31.1	ごみ出し支援について周知し、支援開始
H31.4	地域支え合いサポーター交流会を開催
R1.9	第2回地域支え合いサポーター養成講座開催
R1.11	居場所「かみ2カフェ」スタート

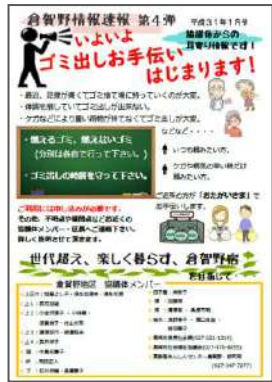
協議体の特徴や雰囲気

13町内会から1人～3人ずつがメンバーとして協議体に参加しています。区長や民生委員なども多いですが、会議では個人としての立場で発言し、情報共有しています。得意なことを発揮できるよう、楽しい会議にしています。

ニーズ把握

- 【目的】「地域の高齢者が何に困っているのか、周りの人に自分ができることは何か」を知る。
- 【方法】各町内会で敬老祝いの品を届ける時に個別に聞き取り
- 【対象】70歳以上の高齢者
- 【時期】H29.11
- 【結果】町内会ごと、性別、年代別など、細かに分析を行いました。倉賀野全体で見ると、困っているこ

とは、1位「買い物」、2位「外出手段」、3位「ごみ出し」。周りの人に自分ができることは、1位「安否確認」、2位「話し相手」、3位「ごみ出し」。ごみ出しのニーズとお手伝いをマッチングさせ、町の取り組みが「ゴミ出し支援」に決まりました。



担い手の養成

【目的】 自分の町内では自分たちで支え合うことができる。また、他にも自分たちができることで助け合えるように地域支え合いサポーターを増やしていく

【方法】 地域支え合いサポーター募集(倉賀野祭り)で周知、メンバーからの声掛け)。地域支え合いサポーター養成講座実施。

【対象】 倉賀野祭りに参加している人。ボランティアに関心のある人

【時期】 H30.5 H30.8 RI.9

【結果】 地域支え合いサポーター登録者は、倉賀野祭り等で広く周知して登録してくれた方よりも、メンバーからの声かけで登録してくれた方のほうが多かったです。身近な人からの声掛けが大切だと感じました。

社会資源の把握

【目的】 どこに高齢者に必要な資源があるのかを知る。

【方法】 地図に項目ごとにシールを貼り、パソコンの得意なメンバーが地図を写真に撮り作成

【時期】 H29.3

【結果】 町全体が東西に長いので、高齢者が歩いて行けるところにどんなところがあるのか、どの地域に何が足りなくて困っているのかを一覧表にすることで、地域の資源がよくわかりました。倉賀野町の高齢者を担当しているケアマネジャーにも大変喜ばれました。



生まれた支え合い活動

始めの取り組みとしての「ごみ出し支援」では、協議体で町全体の大まかなごみ出し支援のルールを決めて、細かなところは各町内会のメンバーが考えることになりました。町内会のメンバーの団結力が必要となってきます。

また、次の取り組みとして「居場所づくり」が始まりました。「歩いていけるとところに集いの場をつくらう」というメンバーさんたちの熱い気持ちでがんばっています。

メッセージ、PRしたいこと

★13町内あるため、町内ごとのルールを作りました。それぞれの人に寄り添った支援をしています！

★「かみ2カフェ」を開設しました！雑談の中から困りごとが上がってきます。小さなコミュニティが必要だと実感しました！

北東西地区協議体

(愛称) 地域支え合い北東西 ほくとせい

地域：北・東・西小学校区

人口：18,663人 高齢化率：28.47%

発足時期：H29.2 メンバー数：14人

開催日時：第3水曜 10:00~11:30

場所：高崎市総合福祉センター3階

スローガン／目指す地域像

助け合う今日も元気な街づくり



協議体の特徴や雰囲気

協議体会議の前に前回の内容等をしっかり復習し、会議を行っています。協議体発足当時からすると、メンバーの人数は減りましたが、地域づくりに関心のあるメンバーがその日のテーマに沿って、率直に意見交換しています。

周知

【目的】協議体の活動を知って、理解してもらう

【方法】各小学校区区長会へ説明、周知チラシ回覧、メンバーによるチラシの個別配布

【対象】各小学校区内の住民

【時期】R1.5~R1.9

【結果】各区長会への説明は、北、西小学校区はメンバーのネットワークを通じて行い、東小学校区はあんしんセンターが行いました。チラシを活用して協議体活動の趣旨を説明しましたが、新たな取り組みであるため、協議体についてイメージしにくいようでした。

活動の経過

H29.2	北東西地区協議体発足 計4回の勉強会を経て、15人のメンバーで発足しました。
H29.3	スローガン(目指す地域像)の決定
H29.5	協議体の愛称を「地域支え合い北東西(ほくとせい)」に決定 高齢者の交流の場についての検討が始まりました。「マッピング」「各メンバーによる聞き取り」「一覧作成」
H30.9	高松協議体(中央・城南・南地区)と情報交換会 周知活動の情報収集を行うために開催しました。
H31.4	周知チラシ完成
R1.5	東小校区、西小校区の区長会へ説明 協議体活動の理解、チラシの回覧をお願いしました。
R1.6	それぞれの地区で周知チラシ回覧
R1.7	はんばの会(塚沢・浜尻地区)と情報交換会 「取り組んでいるテーマ」、「複数地域からなる協議体」等、共通点が多いため、情報交換会を実施しました。
R1.8	北小校区の区長会へ説明
R1.9	周知チラシ回覧
R1.10	「つどい・ふれあいの場一覧」(高齢者の交流の場の一覧表)の最終確認



周知チラシを回覧したところ、ある地区では町内の長寿会で説明がされたり、区長さんが協議体のことを聞きに来られたりと、反応もありました。

ニーズ把握

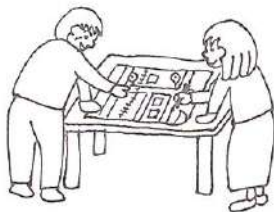
メンバーからは、「地域の高齢者の困りごとを調べなきゃね」といった意見が出ています。地域の強みも含め、これから把握できるようにメンバーで協力し合って、取り組んでいきたいと思っています。



社会資源の把握

- 【目的】 高齢者の交流の場がどこにあるのかを知る
- 【方法】 地図にシールを貼りマッピング。メンバーによる聞き取り調査。一覧表にまとめる。
- 【時期】 H29.5～
- 【結果】 メンバーが直接交流の場にかかわっている方が多いため、ポイントを絞って情報収集することができました。

情報収集において、交流の場が必要な地域や課題なども見えるようになりました。「交流の場は地域の宝物」ととらえ、必要な人に必要な情報が提供され、今ある活動の活性化につながるように検討しています。



生まれた支え合い活動

社会資源の把握をきっかけに、各地域でお互い気にかけて、見守り合う活動がたくさん行われていることがわかりました。協議体活動をきっかけに、介護予防の必要性について自らの体験をもとにメンバーが町内の公民館を活用して運動倶楽部を開催し、今では、皆さんの交流の場になっています。また、他地区の協議体との情報交換会を通して、初めて映画鑑賞会を催すなど、人と人がつながる活動が少しずつですが芽生えています。

今後の活動

新たに担い手を養成するところまでは進んでいませんが、話し合いの中で、得意分野を発揮できる住民がたくさんいることがわかりました。協議体をきっかけに知り合った住民が、自分の得意なことを活かし、地域を超えて活動しています。例えば、ギター演奏の得意な住民が他地区のいきいきサロンへ出向いて音楽演奏をするなど、地域を超えて活動している例もあります。「人も地域の宝物」ととらえ、今後も協議体で地域情報の共有をしていきたいと思っています。



実施地	名称	特徴	開催日時	開催場所	開催頻度	参加人数	備考
飯塚第一公民館	高齢者交流会	毎月第1回開催	毎月第1回	飯塚第一公民館	毎月1回	約20名	
飯塚第二公民館	高齢者交流会	毎月第2回開催	毎月第2回	飯塚第二公民館	毎月1回	約20名	
飯塚第三公民館	高齢者交流会	毎月第3回開催	毎月第3回	飯塚第三公民館	毎月1回	約20名	
飯塚第四公民館	高齢者交流会	毎月第4回開催	毎月第4回	飯塚第四公民館	毎月1回	約20名	
飯塚第五公民館	高齢者交流会	毎月第5回開催	毎月第5回	飯塚第五公民館	毎月1回	約20名	
飯塚第六公民館	高齢者交流会	毎月第6回開催	毎月第6回	飯塚第六公民館	毎月1回	約20名	
飯塚第七公民館	高齢者交流会	毎月第7回開催	毎月第7回	飯塚第七公民館	毎月1回	約20名	
飯塚第八公民館	高齢者交流会	毎月第8回開催	毎月第8回	飯塚第八公民館	毎月1回	約20名	
飯塚第九公民館	高齢者交流会	毎月第9回開催	毎月第9回	飯塚第九公民館	毎月1回	約20名	
飯塚第十公民館	高齢者交流会	毎月第10回開催	毎月第10回	飯塚第十公民館	毎月1回	約20名	

メッセージ、PRしたいこと

- ・「助け合う今日も元気な街づくり」に向けてがんばっています！！
- ・一人ひとりの高齢者の社会参加、地域参加が実現できればと思います。

佐野地区協議体

(愛称) げんきかい佐野

地域：佐野小学校区

人口：16,731人 高齢化率：21.61%

発足時期：H29.3 メンバー数：20人

開催日時：第4火曜 13:30～15:30

場所：佐野公民館

スローガン／目指す地域像

いいね～佐野は！みんなで協力、声かけ合おう！



協議体の特徴や雰囲気

協議体では、女性も多く柔軟な発想で、皆さんから活発な意見が出ています。10町内の区長さんが全員メンバーとなっているので、「これをやろう」となった時に自治会の協力が得られ、活動がスムーズに進みます。

周知

【目的】協議体の活動を知ってもらう

【方法】チラシ・たよりの作成、回覧

【対象】地域住民

【時期】チラシ (H29.12) たより (R1.6・8・9)

【結果】チラシを作成するにあたり、若い世代には読みやすくても高齢者の方にはわかりにくい場合があるので「字体、大きさ、用紙の色等を検討した方が良い」、「内容は簡潔にわかりやすく」等を考えて作成しました。周知に向け検討を繰り返す中で、「住民に伝えたいこと、理解してもらいたいこと、協議体とは？」を改めて考えさせられ、勉強会をしていた頃に戻ってしまったりする場面も多々ありました。

地域に回覧した結果、反応はあまりなく、今後は回覧だけではなく声掛け等も必要と感じました。

活動の経過

H29.3	<u>佐野地区協議体発足</u> 6回の勉強会を経て、22人で発足しました。
H29.5	<u>民生委員定例会に参加し困りごとの聞き取りを依頼</u> 民生委員の6.1調査で買い物に困っている人がいるか別紙で依頼しました。
H29.7	<u>スローガン決定</u> 住民がわかりやすいスローガンを出し合い決定しました。
H29.12	<u>協議体チラシを作成・回覧</u>
H30.5	<u>買い物・食事処の情報チラシを作成・回覧</u> 発足時からメンバーで地区内に何があるか、実際お店に行き確認しました。
H30.6	<u>民生委員の6.1調査時での高齢者の様子や感想を民生委員にアンケート</u>
H30.6	<u>協議体の愛称【げんきかい佐野】に決定</u>
H30.9	<u>佐野地区内の居場所探し、居場所づくりを検討</u>
H30.11	<u>3世代交流「佐野まつり」へ参加</u> 地域づくり活動協議会と連携し協議体ブース、活動費を援助していただきました。アンケートで担い手になれる方を探しました。
R01.6	<u>居場所「げんきかいカフェ」開設</u> 佐野公民館 10:00～12:00 (偶数月第4金曜)
R01.7	<u>居場所「げんきかいカフェ」を開設</u> 特養天界園 10:00～12:00 (奇数月第4金曜)



ニーズ把握

【目的】高齢者の困りごとを知る

【方法】民生委員の6.1調査時。①買い物についての聞き取り、②民生委員の調査時の高齢者の様子をアンケート

【対象】佐野地区 70歳以上

【時期】①H29.5 ②H30.6

【結果】6.1調査時に高齢者の困りごとを記載してもらいました。協議体では買い物に困っている人が多いと予想しましたが、現状は「人との交流が少ない」「集う場所がない」「集う場所があっても世話をする人がいない」等でした。この結果を話し合い、高齢者のニーズ把握をしたことが、後の「げんきかいカフェ」に繋がる大きなきっかけになりました。

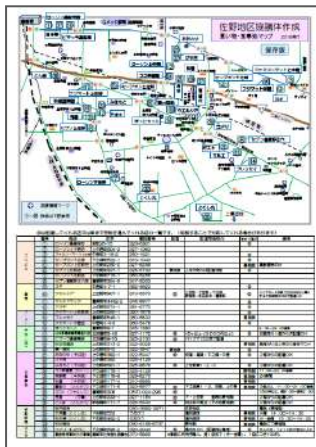
社会資源の把握

【目的】買い物場所、食事処を把握する

【方法】リストアップをし、メンバーで手分けして聞き取り調査

【時期】 H29.4～

【結果】調査するにあたり、協力してくれるお店がたくさんあることがわかりました。また、メンバー自らお店に足を運び、協議体の説明をすることで、メンバー自身の協議体への理解が深まってきました。



生まれた支え合い活動

H30.9から居場所づくりの検討をしており、メンバーそれぞれが既存の居場所を確認していました。

H31.4にメンバーが主体となり「まずは自分たちでやってみよう！」を合言葉に佐野公民館と天界園で「げんきかいカフェ」を開設しました。各メンバーが居場所の担い手として活動できそうな知り合いに声掛けをし、「げんきかいカフェ」のお手伝いに来てもらい、ミニ説明会を行いました。

その他、佐野公民館で「ミニカフェとしよ室」も開設し、図書ボランティアの方へミニ説明会を行いました。



今後の活動

メンバーが個々に声掛けをした人や佐野まつりでアンケートに答えてくれた人を対象に、支え合いの勉強会や交流会を開催したいと考えています。

メッセージ、PRしたいこと

♡佐野地区協議体として考えている事♡

- ・佐野地区の各町内公民館 10か所で『げんきかいカフェ』を開催できるようサポートする。
- ・佐野地区の催しに積極的に参加し、協議体の周知と担い手となる人とつながりたい。
- ・佐野地区にある企業と連携する。

～佐野地区協議体では支え手の方と一緒に『げんきかいカフェ』と『ミニカフェとしよ室』を佐野公民館と特別養護老人ホーム天界園で開催しています。ぜひお立ち寄りください！～

城東・東部地区協議体 (愛称) そよ風くらぶ

地域：城東・東部小学校区
 人口：27,063人 高齢化率：22.60%
 発足時期：H28.11 メンバー数：26人
 開催日時：第3木曜 10:00～11:30
 場所：シルバー人材センター2階

スローガン／目指す地域像

で愛・ふれ愛・ささえ愛～つながろう住みなれた町で～



協議体の特徴や雰囲気

シルバー人材センターの2階をお借りして、地域でできることからをモットーに楽しく活動しています。協議体の中でメンバーの役割分担を決め、協議体として無理なく今できることを考えています。自分たちの暮らす地域が「こうなったらいいな」を実現するために、みんなで和気あいあいと協力しながら活動しています。

周知

- 【目的】協議体の活動を知ってもらう 担い手を探す
- 【方法】青空カフェで周知
- 【対象】地域住民
- 【時期】H29.10
- 【結果】楽しいことを通じて「支え合い」を知ってもらうため、青空カフェを計画しました。メンバーがそれぞれ近くの人に声かけし、実行委員会を発足しました。実行委員会では責任者を決め、事務局は東部、城東各1人ずつとしました。公園管理者と調整し、プログラムは7つとし、参加費を100円と決めました。「青空カフェ 歌って＊踊って＊ふれあって」のチラシを作成・配布し、参加を呼びかけました。戸外で雨天の場合は中止になるリスクがあり心配でしたが、H29.10.31 若宮公園にて第1回青空カフェを開催、約200の方が参加してくださいました。住民同士のつながりを作る場所を提供することで、知らなかった人同士が顔を合わせ、交流できました。



活動の経過

H28.11	城東・東部地区協議体発足 生活支援等サービス体制整備事業についての勉強会を経て、発足しました。
H29.4	コミュニティカフェ「一休さん」スタート
H29.7	道草カフェ「恵」スタート
H29.8	協議体の愛称「そよ風くらぶ」に決定
H29.10	第1回青空カフェを開催 そよ風くらぶの広報とサポーター募集のチラシ配布しました。 若宮公園にて、約200人参加しました。
H30.4	第2回青空カフェを開催 若宮公園にて、約250人参加しました。
H30.6	地域支え合いサポーター養成講座の開催 36人登録しました。
H30.6	「くじら森ふれあいの家」スタート
H30.12	協議体メンバー慰労会開催 困りごとアンケート実施
H31.4	第3回青空カフェを開催 若宮公園にて、約240人参加しました。
R1.5	地域支え合いサポーター養成講座の開催 16人登録しました。

ニーズ把握

【目的】地域ごとにどんな声が多いか、困りごとを把握する

【方法】あったらいいな、こまったな〜と、思いつくままに綴るアンケートを作成、いきいきサロン代表者や民生委員に配布依頼。病院など高齢者が集まる場所にアンケートと回収箱を設置。

【対象】地域住民

【時期】H30.12～

【結果】H31.3の協議体で、集計結果の情報共有を行いました。困りごとの内容で多かったのは、「1.病気や加齢に伴う不安」、「2.居場所、友人」、「3.買い物支援と片付け・ごみ廃棄」が同数、「4.交通・外出」、「5.除草、庭の手入れ」の希望がありました。集計結果に対し、対応方法を検討し、今後、こんなことならできるということを地域支え合いサポーターや住民に伝えられるように取り組んでいきます。



担い手の養成

【目的】ごみ出しや買い物の手助け等、お互い様の輪を広げていけるよう地域支え合いサポーターを増やしていく

【方法】地域支え合いサポーター養成研修の開催

【対象】地域住民

【時期】H30.6 R1.5

【結果】できるだけ多くの人達が、困りごとに対して何らかの形で地域に関わることができるとの希望をもちたいと、養成講座を2回開催しました。

カラーのチラシを作成し広報活動を実施。サポーター登録者数約70人、多くの方々に登録していただいています。



今後の活動

「住み慣れた地域で、いつまでも健康で、自分らしい暮らしを続けたい」みんなの願いです。協議体としての支え合い活動の一步として、愛3燦^{あいさんさん}《そよ風クラブ》ネットが生まれました。3部会に分かれて、自分の時間も大切に、無理なく何ができるか、検討していきます。



社会資源の把握

【目的】地域全体の特性や強みについて把握する
既存の居場所を調べる(公民館・集会所・個人宅・空家・公園・病院・スーパー等)

【方法】地図上に色分けしてシール・付箋を貼りマッピング。城東・東部に分かれ実施。

【時期】H28.12

【結果】各地域における居場所について確認したところ、いきいきサロンの活動に積極的な住民が多くいることがわかりました。どのような資源があり、得意分野が何なのかしっかりと見極め、住民同士のニーズと、活動のマッチングが行えるよう、今後も情報共有していきます。

メッセージ、PRしたいこと

音楽(楽器)や運動(体操・ダンス)等を通して、楽しく仲間づくりをしています。

青空カフェや自主サロン等で、『そよ風くらぶ』のことをもっと知ってほしいです。

今後も養成講座を開き、担い手を増やしていきたいです。

大類地区協議体

地域：大類小学校区
 人口：4,910人 高齢化率：28.45%
 発足時期：H29.2 メンバー数：17人
 開催日時：第2水曜 14:00～15:30
 場所：大類コミュニティ消防センター 2階

スローガン／目指す地域像

元気なうちから互いに手を取り合って、みんなで支えるまちづくり



協議体の特徴や雰囲気

区長や民生委員といった役を前に出さず、「地域住民」として、「大類地区をより良くしていきたい」との共通認識を持った、ボランティア精神溢れる有志の集まりです。

会議ではなく、「座談会」のような和やかな雰囲気、短時間で、濃い内容の話し合いを重ねています。

周知

【目的】協議体を知ってもらう

協議体メンバーを含む、地域支え合いサポーターを増やす

【方法】周知チラシ全戸配布

【対象】大類地区全世帯

【時期】①H29.10 ②H30.8 ③H31.3 ④R1.7

【結果】協議体の住民メンバーが、たたき台から作成までを担当しました。協議体の住民メンバーより区長へ依頼し、全戸配布しました。



活動の経過

H28.7	第1回勉強会
H29.1	社会資源情報共有
H29.2	大類地区協議体発足
	住民コアメンバー8人でスタート
H29.4	アンケート実施
	53人回答がありました。
H29.10	大類ふれあいフェスタのお知らせチラシ作成・回覧
H29.11	協議体周知のための大類ふれあいフェスタ開催
	イベント参加者85人。
H30.5	スローガン決定
H30.8	チラシ第2号 作成・全戸配布
H30.9・10	いきいきサロン、敬老会等に協議体の説明
	高齢者宅に聞き取り調査約50人
H30.11	協議体メンバーが新たに11人追加
H31.3	協議体メンバー向け勉強会開催
	チラシ第3号 作成・全戸配布
R1.7	チラシ第4号 作成・全戸配布
R1.8・10	居場所の情報収集
	市内の居場所見学「一休さん」

社会資源の把握

【目的】地域の住民の活動状況を把握する

【時期】H29.1

【方法】1活動1枚のポストイットに活動内容を書き、模造紙に貼り出し、見える化

【結果】活動状況を把握している中で「活動している人が重複していること」「誰がどんな活動をしているか」までは把握できていないことがわかりました。また、「話し相手がいないということ」が一番の困りごとで、人との関係が希薄になってきていることがわかりました。



ニーズ把握

【目的】いきいきサロンに参加していない方の状況を知る

【方法】協議体の住民メンバーが主体となり聞き取りアンケートを行う

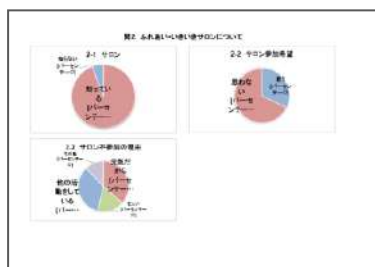
【対象】いきいきサロンに参加していない高齢者

【時期】H29.4

【結果】聞き取り等によりわかったこと

- ・今困っている人は、ほとんどいない。
- ・同居家族が多い地域で、家族以外に世話になる意識が少ない。
- ・地域の関わりの薄さ。
- ・いきいきサロン参加者は女性が多く、男性が参加しにくい。

聞き取りアンケートの実施を通じて、協議体活動の周知となりました。今後活動を進めるにあたり課題はありますが、少しずつ取り組んでいきたいと思えます。



担い手の養成

【目的】今後、地域支え合いサポーターを養成する際の準備として、まずは自分達（協議体の住民メンバー）が協議体についてきちんと理解し、共通認識をもつ

【方法】勉強会を実施

【対象】大類地区協議体メンバー

【時期】H31.3

【結果】新たに協議体メンバーとして加わった方と一緒に、改めて生活支援体制整備事業について勉強をしたことで、メンバー間でより理解が深まり、共通認識を持つことができました。



今後の活動

社会資源の共有、アンケートや、聞き取りを繰り返し行う中で、「今、困りごとを抱えている方は少ない」また、「困りごとを相談する際は、顔が見える関係性がないと打ち明けることが難しい」ということもわかりました。このため、何気ないつぶやきから、困りごとやニーズを把握できるように、居場所をつくることを決めました。

今まさに、支え合い活動（居場所）の創設に向け、準備しています。



R1.9 居場所創設に向け、ボッチャ体験

メッセージ、PRしたいこと

- ・頑張って活動しています！ ・まだまだメンバー募集しています！
- ・回数を重ねるごとに、少しずつ前に進んでいます。

中居・矢中地区協議体

地域：中居・矢中小学校区

人口：17,359人 高齢化率：25.06%

発足時期：H29.1 メンバー数：22人

開催日時：第3火曜 13:30~15:30

場所：中居公民館、老健くろさわ地域交流室

スローガン／目指す地域像

ほっとかない、助け合う町 中居 矢中

協議体の特徴や雰囲気

勉強会や協議体発足当時から、メンバーから気楽に様々な意見がたくさん出ます。ここ1年近くは「早く何かをしなくては・・・」という前向きな思いから、少し緊張感が漂う時もあります。「今よりも暮らしやすい地域を目指したい」という思いがある熱い心の協議体です。

周知

【目的】協議体が発足したことを知ってもらう

【方法】チラシを作成・全戸配布。いきいきサロン、長寿会に配布。

【対象】区長、民生委員、いきいきサロン、長寿会、地域住民

【時期】H29.9

【結果】チラシを全戸配布以外に個別配布で協議体の取り組みについて説明しました。その際にアンケートも実施しました。周知活動がきっかけとなり、第2層協議体メンバーが増えました。協議体では今後どのように周知活動を行うか検討し、「チラシよりも口コミが大切」という共通理解で、地域でのつながりを大切にして周知活動を行っていきます。

活動の経過

H29.1	<u>中居矢中地区協議体発足</u> 5回の勉強会を経て、18人で発足しました。
H29.3	<u>スローガン決定</u> メンバーから思いを込めた提案がたくさんありました。決めるのに悩む程、素晴らしい提案でした。
H29.9	<u>周知チラシを作成・全戸配布</u>
H29.10 ~12	<u>アンケート実施</u> 地域のいきいきサロンや長寿会、文化祭に向向いて周知チラシを配布、協議体の説明、「困りごと」「あったらいいな」等のアンケートを行いました。
H30.2	<u>社会資源を把握するためのマップ完成</u>
H30.3	<u>居場所を検討</u> アンケート集計の結果、あったらいいなと思うものは「居場所」が多かったため、居場所づくりに取り組みました。
H30.7	<u>地域支え合いサポーター養成講座開催</u> 受講者：36人 17人に地域支え合いサポーターに登録していただきました。
H30.11	<u>居場所「ユウゼンギク」開催</u> 老健くろさわ地域交流室 13:30~15:30 (第2・4火曜日)



ニーズ把握

- 【目的】 地域の高齢者は何に困っているのかを知る
- 【方法】 いきいきサロン、長寿会、文化祭で聞き取りとアンケート
- 【対象】 いきいきサロン、長寿会、文化祭参加者等
- 【時期】 H29.10～12
- 【結果】 いきいきサロンや長寿会、文化祭等に参加される方の困りごとは少なかったですが、「あったらいいな」の回答に「交流の場がほしい」との意見が多かったため、居場所づくりに取り組みました。



生まれた支え合い活動

居場所（ユウゼンギク）ができました。周知ちらしをH30.11に全戸配布後、11.27より開始しました。参加者は約20人で、集まったメンバーが開催内容を検討しています。既存のボランティアグループ（中居地区ボランティアの会）にも協力いただき、運営しています。



居場所「ユウゼンギク」
老健くろさわ地域交流室 13:30～15:30（第2・4火曜日）

社会資源の把握

- 【目的】 日常生活に必要な施設（スーパー・コンビニ・食事処・医療機関）、いきいきサロン、バス路線（ぐるりん）について知る
- 【方法】 地図にシールを用いてマッピングし、社会資源地図を作成
- 【時期】 H29.12～H30.3
- 【結果】 始めはマッピングに付箋を使用していましたが、剥がれやすいため、シールを貼る形式に変更しました。メンバー全員で取り組んだことにより、中居地区と矢中地区の社会資源の把握ができました。



担い手の養成

- 【目的】 居場所を手伝ってくれる人を探す
- 【方法】 意欲的な人を中心に声掛けをする
- ・中居地区ボランティアの会の定例会に参加し、周知
 - ・矢中地区住民で興味のある方には高齢者あんしんセンターが個別に周知
 - ・養成講座のチラシは中居地区ボランティアの会の会長が作成
- 【対象】 中居地区ボランティアの会メンバー、矢中地区住民で支え合い活動に興味のある方
- 【時期】 H30.7
- 【結果】 地域支え合いサポーター養成講座に36人が参加し、17人が支え合いサポーターとして新規登録となりました。



メッセージ、PRしたいこと

- ・居場所など、既存の地域のボランティアの方が活躍しています。
- ・ほっとかない、助け合う温かい街の実践



乗附地区協議体

地域：乗附小学校区

人口：6,705人 高齢化率：29.66%

発足時期：H28.11 メンバー数：17人

開催日時：第3火曜 10:00~11:00

場所：乗附公民館

スローガン／目指す地域像

見守り・支えあう 顔の見えるふれあいのまち



協議体の特徴や雰囲気

各町内から1人以上が参加し、毎回和やかな雰囲気です。地域の困りごと、いつも助けてくれるメンバーです。各町内に居場所ができ、それぞれの活動の様子を報告し、共有しています。席はメンバーお手製のくじを用い、くじ引きで決めています。お茶の用意も皆で順番に行っています。昨年より公民館の和室に椅子を用意していただき、足のしびれがなくなり快適に会議を行っています。

活動の経過

H28.11	<u>乗附地区協議体発足</u> 4回の勉強会を経てメンバー17人で発足地域ニーズ把握のためのアンケート実施を決定しました。
H28.12	<u>目指す地域像決定</u> 「見守り・支えあう 顔の見えるふれあいのまち」
H29.2	<u>協議体の周知</u> より親しみやすく「隣近所」「助け合い」等の言葉、困ったときに気軽に声をかけてもらえるチラシを作成しました。
H29.5	<u>社会資源の把握</u> 第3層の担い手と併せて検討を開始しました。
H29.7	<u>「乗附地区困りごとアンケート」実施</u> アンケートと協議体チラシを作成し、全戸配布しました。
H29.9	<u>アンケートの分析</u> 居場所づくりの取り組みを開始しました。
H29.10	<u>社会資源のマッピング</u> 居場所づくりに利用可能な空き家を検討しました。
H29.12	<u>各地区居場所の立ち上げに向け活動開始</u>
H30.3~	<u>7町内に居場所開設</u>
H31.1	全地区にいきいきサロン、ラジオ体操会が立ち上がりました。

周知

【目的】協議体が発足したことを地域に知ってもらう

【方法】全戸配布（班長へ依頼）

【対象】地域住民

【時期】H29.7

【結果】地域ニーズ把握のためのアンケートを実施する前に協議体が発足したことを地域に知らせる必要があるのではないかとことから、チラシづくりに取り組みました。協議体の周知に焦点を絞り、より親しみやすく、かつ困った時に気軽に声をかけていただける内容にするため、何度も話し合いを重ねて完成しました。区長、囑託員を通して各班長より全世帯に配布することができました。取り組みを通して、区長とも連携でき次の取り組みに進むことができました。



ニーズ把握

【目的】 困りごとを明確にする

【方法】 アンケート

【対象】 全世帯を対象に実施

【時期】 H29.7

【結果】 アンケート結果から移動手段、清掃、ごみ出し、居場所づくり等のニーズがあることがわかりました。できることを検討した結果、「居場所づくり」に取り組み、同時に移送のニーズについても検討することになりました。

アンケートの回答で、現時点では「できる」「問題ない」と回答していても、将来的には助けが必要になる可能性があります。単純に結果だけで考えるのではなく、協議体としては5年後、10年後を見据えた活動を行っていく必要があるとの意見にまとまりました。



社会資源の把握

【目的】 「居場所」の設置に向けて使える社会資源を把握する

【方法】 町内毎に集まる場の情報収集

【時期】 H29.5～

【結果】 既存の居場所をマッピングし、利用できそうな空き家があるかメンバーで情報を共有しました。空き家の活用は難しく、町内公民館がない八千代地区の2つの町内は、居場所として乗附公民館を利用することになりました。

生まれた支え合い活動

「地域住民のつながりを大切に、地域情報や困りごとを把握する場所が各町内にあるといいよね」ということで居場所づくりに取り組んできました。場所探しには苦労しましたが、町内公民館のほか、地域住民の協力で小紋（レストラン）を居場所として貸していただくこともできました。また、どの世代でも参加できるラジオ体操を公園で行っています。取り組み前には、7つの町内のうち1つの町内しかなかった居場所が、現在では全ての町内にできました。

活動として、ラジオ体操会では公園のごみ拾いや欠席者の安否確認を行っています。いきいきサロンでは、皆さんから参加の呼びかけを行っています。参加できなくても、誰かとつながっていることが大切だという思いで声掛けを継続しています。少しずつではありますが、生活の困りごとについて支援する体制づくりを進めている町内も生まれてきました。

毎月の会議の中で各町内の取り組みを報告し、お互いに情報共有しています。本音が語りあえる関係性が築かれ、困りごとが把握できることが居場所の継続には大事だと考えています。



今後の活動

町内ごとの居場所の検討とあわせて担い手養成を進めていきたいと思っています。

メッセージ、PRしたいこと

居場所づくりでは場所がなく苦労しました。他の町内にサロンが立ち上がっていく中、プレッシャーも感じました。その甲斐があって全地区にサロンやラジオ体操会ができ上がりました。

サロンに来る方は心待ち、楽しみにしてくださっています。今後困りごとを気軽に言ってもらえる協議体にしていきたいです。チラシの最新版を作成し、地域の皆様にもっともっと協議体を知ってもらおうと思っています。

塚沢・浜尻地区協議体

(愛称) はんぽの会

地域：塚沢・浜尻小校区

人口：18,270人 高齢化率：27.10%

発足時期：H28.12 メンバー数：15人

開催日時：概ね火曜 10:00~11:30

場所：高崎市総合福祉センター 会議室4

スローガン／目指す地域像

ふれあい 助け合い 支えあう 明るい みんなで まちづくり



H30.8	群馬パース大学で会議を開催
H30.9	はんぽの会 たより2号を発行
H31.1	はんぽの会 たより3号を発行
H31.4	はんぽの会 たより4号を発行
RI.7	はんぽの会 たより5号を発行
RI.7	北東西と共同会議（北・東・西地区の協議体）
RI.8	群馬パース大学で会議を開催
RI.11	浜尻まつりにてはんぽの会周知

活動の経過

H28.12	<u>塚沢・浜尻地区協議体発足</u> 4回の勉強会を経て、12人のメンバーで発足。 キャッチフレーズ決定。堀田先生の講演を聞いて、地域での助け合いが大切との言葉を大切にしました。
H29.4	<u>社会資源をマッピング</u>
H29.7	<u>群馬パース大学で協議体を開催</u>
H29.9	<u>ガレージでの居場所開催</u>
H29.10	<u>協議体の愛称を決定</u> はんぽの会。一歩踏み出すのは敷居が高いが、まず「半歩」進んでみようという思いを込めて決定しました。
H29.12	<u>はんぽの会キャラクター決定</u> はんぽちゃん（2つのイメージで作成）
H30.3	<u>塚沢地区区長会にてはんぽの会周知を行う</u> メンバー2人、あんしんセンター2人
H30.3	<u>はんぽの会 周知のちらし完成</u>
H30.4	<u>浜尻地区区長会にてはんぽの会周知を行う</u> メンバー2人、あんしんセンター2人
H30.5	<u>5月15日の回覧で周知。たより1号</u>
H30.8	<u>塚沢地区区長会にてはんぽの会について詳しく説明</u> 区長2人、あんしんセンター2人、市職員1人

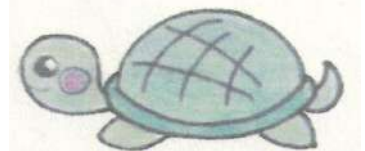
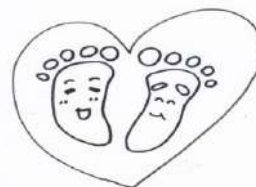
協議体の特徴や雰囲気

はんぽの会の由来は、一歩踏み出すのは敷居が高いが、まず「半歩」進んでみようという思いを込めて決定しました。この由来のように、少しずつ、どんな活動ができるかを話し合い、活動をしています。

会議の冒頭では、地域の行事や、最近気になった新聞記事などの情報を持ち寄り意見交換をしています。

地域にある大学との連携として群馬パース大学に協力していただき、年に1回協議体会議を開催しています。

イメージキャラクター



周知

【目的】協議体が発足したこと、活動内容を知ってもらう

【方法】区長会への説明 たよりの回覧 浜尻まつりへ参加し協議体の周知活動

【対象】区長、幅広い世代

【時期】区長会：H30.3、H30.8(塚沢地区)
H30.4(浜尻地区)

たよりの回覧：(H30.5、H30.9、H31.1、H31.4、R1.7)
浜尻まつり：R1.11

【結果】区長会の説明では、協議体がなぜ必要なのかを理解していただき、お互いさまの支え合いの体制づくりについて地域ごとに考えていくことを改めて説明しました。互助の部分では、地域の力が必要、「たよりがどの程度効果が出ているのか」ということは評価できていませんが、「定期的に活動内容を周知していくこと」を大切に、年4回協議体たよりを発行することになりました。

社会資源の把握

【目的】地域の中にある居場所、誰でも参加できる行事を知る

【方法】シールを使用したマッピング
一覧表作成

【時期】H29.4～

【結果】閉じこもりがちな高齢者の外出のきっかけづくりが必要となってきています。そのためには、地域で集まれる場の把握が必要です。周知活動を行うなかで「地域の情報を教えてください」と広く住民に依頼し、各地域から居場所の情報が集まりました。自分たちの地域を可視化することにより、充実しているもの、不足しているものがわかりました。今後の活動に役立てていこうと思います。



今まで発行してきた たより

浜尻まつりで配布したチラシ (第1層協議体チラシ参考)

メッセージ、PRしたいこと

年に1回群馬パース大学で会議をしています。ゆくゆくは学生と一緒に活動していきたいと考えています。メンバーに民生、区長も参加していますが、役職ではなく、2025年問題をわがこととしてとらえて参加しています。少子高齢化に伴い、子どももお年寄りも参加できる居場所づくりを目指しています。

吉井地区協議体

地域：吉井地域

人口：23,753人 高齢化率：32.65%

発足時期：H29.8 メンバー数：21人

開催日時：第2金曜 10:00~11:30

場所：吉井福祉センター

スローガン／目指す地域像



『よってきない 笑顔でつながる みんなの輪』



協議体の特徴や雰囲気

全36区、7小学校区の広い地域です。地区により特徴が異なるため、議題に応じて、グループ分けをして話し合いを行なうこともあります。

毎回冒頭に、ここ1ヶ月間で情報共有したいことを出す時間を設けています。メンバーが所属している団体の情報や各地域のことなど、様々な情報を共有しています。

メンバーは、元区長・民生委員・介護予防サポーター・オレンジサポーター・NPO法人・長寿会・各ボランティア団体所属者だけでなく、うおかつのとくし丸号もメンバーに加入しています。終始和やかな雰囲気です。

社会資源の把握

【目的】自分たちの地域のことを知る

【方法】大きな地図にメモした付箋を貼る

【時期】H29.11~R1.7

【結果】地域が広いので3つのテーマに分け、①集まりの場、②医療機関、③衣食住をそれぞれ作成しました。「病院やスーパーに行くにしても、移動手段がないと困る」「バスを利用するにしても、乗り継ぎをしないと行けない」「バス停まで行くこと自体がたいへんである」という地域があることに気がきました。



活動の経過

H29.4	<u>区長会へ説明を行う</u> 協議体発足にあたり、勉強会の案内を実施。
H29.8	<u>吉井地区協議体発足</u> 計4回の勉強会・準備会を経て発足。 スローガンが決定。吉井町に気軽に寄っていただけるようにという思いを込めました。
H30.5	<u>集まりのマップ完成</u> 人が集まっている場がたくさんあることに気づきました。
H30.8	<u>よしいバスに試乗</u> バスが必要不可欠であることを改めて確認できました。
H30.12	<u>医療機関のマップ完成</u> バスを乗り継ぎしないと行けない所があることに気づきました。
H31.3	<u>吉井福祉センターまつりでアンケート</u> 参加者 246人からアンケート調査を実施し、困っている人と、協力できる人を上手くマッチングできないか検討中です。
R1.7	<u>衣食住のマップ完成</u> 町の商店を含めた情報を共有しました。
R1.11	<u>周知チラシ作成・配布(吉井福祉センターまつり)</u> 初の周知チラシを来場者に配布。

社会資源の把握

【目的】 移動手段に困っている人が多いため実態調査

【方法】 バス試乗 4コースにチーム分けをして乗車

【時期】 H30.8

【結果】 山間部の一部の路線は手を上げるとバスが止まってくれるエリアもあるが、「そこに行くまでがたいへんである」「乗車人数は少ないものの、バスが必要不可欠である」ということがわかりました。



ニーズ把握

【目的】 地域の困りごとと協力できる人を知る

【方法】 吉井福祉センターまつりにてアンケート調査

【対象】 吉井福祉センターまつりの来場者

【時期】 H31.3

【結果】 協議体のPRをしつつ、参加者246名にアンケートを実施しました。「交流」に困っている方が少なかったものの、「交流」について協力できるという方が多数いました。上手くマッチングできないか、ということに気付き、今後の課題になりました。



周知

【目的】 協議体を知ってもらう

【方法】 吉井福祉センターまつりにてチラシ配布

【対象】 吉井福祉センターまつりの来場者

【時期】 R1.11

【結果】 メンバーによる習字ロゴとイラストを入れ、協議体の取り組みについて「シンプルに分かりやすく伝える」をテーマに周知チラシを作成しました。当日は、スタンプラリーコーナーや、ポップコーン配布にて集客を工夫し、チラシ353枚を配布しました。熱心に説明を聞いてくださった住民の方も多く、支え合いの必要性や、協議体メンバーと住民との繋がりを感じられた活動となりました。



吉井社協だよりにて、H30.2とR1.10に、協議体の周知をしていただきました。「協議体の記事見たよ」という声も挙がり、少しずつではあるものの、周知がなされていることを実感しました。



メッセージ、PRしたいこと

私達の地域では、特に移動手段が大きな問題となっています。

あなたにも出来る、お互い様の支え合い。和やかで和気あいあいとした雰囲気

吉井地区協議体で、ワンチームになりましょう！ 地域も広い、心も広い、協議体です。



箕郷地区協議体

(愛称) みのわの郷協議体

地域：箕郷地域
 人口：20,336人 高齢化率：29.05%
 発足時期：H29.9 メンバー数：20人
 開催日時：1～2ヶ月に1回 13:30～15:00
 場所：箕郷福祉会館(エスポワール)

スローガン／目指す地域像

～支えあい、助け合い、つなげよう～



協議体の特徴や雰囲気

各団体の代表がメンバーになっており、箕郷地域について知り尽くしているため、地域の現状が協議体会議の中ですぐに共有できます。現在実施しているアンケートも、決定から実施まで短時間で行うことができました。

発足から現在まで、箕郷地域がより暮らしやすくなるように話し合いを繰り返しています。

個性豊かなメンバーが明るい雰囲気です。全員が発言し、毎回楽しく建設的な意見が飛び交う協議体です。

活動の経過

H29.9	<u>箕郷地区協議体発足</u> 3回の勉強会を経て、20人のメンバーで発足しました。
H29.11	<u>課題の整理</u> メンバーで箕郷地域の課題を話し合い、課題整理表を作成しました。
H30.3	<u>スローガン決定</u> メンバー同士で意見を出し合い、こんな箕郷地域になってほしいと思いを込めて決めました。
H30.7	<u>居場所の把握</u> いきいきサロン、長寿会について情報を共有し、どうしたら参加者が増えるか検討しました。
H31.4	<u>周知チラシ作成・回覧</u>
RI.9	<u>困りごとアンケート実施</u> 民生委員、区長、いきいきサロン代表、長寿会に対してアンケートを行いました。 125名に依頼し、103名より回答がありました。(回答率 82.4%)

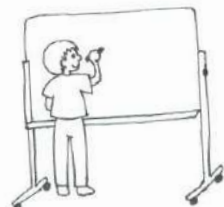
課題の整理

【目的】箕郷地域が抱える課題(ニーズ)を共有し、いくつかある課題の中で、解決に向けて何から話し合うか決める

【方法】メンバーで意見を出し合い、課題整理表を作成した。

【時期】H29.11

【結果】課題が整理され、どこから話し合ったらよいか見えてきました。箕郷地域はいきいきサロンや長寿会の活動が活発のため、既にあるものを生かして何か取り組まないか、という話になりました。そこで、まずは居場所の把握を行うことになりました。



課題整理表

優先順位	課題の項目	理由	方法(どうしたら良いか)
3	買い物	車 運転が苦手な ものが買えない、生 活 圏外の人や車を運転している人が少ない 地区のものは対応が薄くなる(だが、生ものは買えないので、不要)。 移動困難者(高齢者、障害者)の買い物支援。 移動困難者(高齢者、障害者)の買い物支援。 移動困難者(高齢者、障害者)の買い物支援。	移動困難者(高齢者、障害者)の買い物支援。 移動困難者(高齢者、障害者)の買い物支援。 移動困難者(高齢者、障害者)の買い物支援。
2	ゴミ出し	分別が苦手な人 ステーションの位置 回収時間	分別が苦手な人への指導。 ステーションの位置の改善。 回収時間の見直し。
1	サロン	高齢化 内閣府が定めた数 男性が少ない	社会福祉協議会(福祉センター)の活用。 社会福祉協議会(福祉センター)の活用。 社会福祉協議会(福祉センター)の活用。
4	移動困難者	情報共有の難しさ 個人情報	匿名で、匿名で個人情報を共有する。 匿名で、匿名で個人情報を共有する。

箕郷地区協議体 第二回協議体(H29.11.21)

社会資源の把握（居場所）

- 【目的】いきいきサロンと長寿会の比較一覧を用い、現状を把握する
- 【現状】箕郷地域内 いきいきサロン 33カ所 単位長寿会 20団体
- 【方法】各地区のいきいきサロン、長寿会のメンバーの話を聞く。
- 【対象】いきいきサロン、長寿会共がない地区に住む高齢者、またはあっても参加できない高齢者
- 【時期】H30.7
- 【結果】居場所づくりにおいて、活発に活動している地域の代表者から話を聞き、活動の参考にすることができました。また、長寿会長からの話を参考に新規メンバーの獲得の方法を共有し、各区で実行することになりました。今後協議体の活動を活発に行っていくにあたり、みのわの郷協議体の周知のためのチラシを作成することになりました。

周知

- 【目的】箕郷地域の人に協議体の活動について知ってもらう
- 【方法】チラシを作成、回覧、配布する。
- 【対象】箕郷地域に住む住民
- 【時期】H31.4
- 【結果】41行政区の回覧、箕郷支所、社会福祉協議会、商店、高齢者あんしんセンターにチラシを設置しました。今後も定期的にチラシを作成し、周知活動を続けていくことになりました。

回覧 さと
みのわの郷 協議体が 高崎市
始まりました

箕郷地区では、区長、地区社協、民生委員、いきいきサロン、長寿会、オレンジサポーターなどを中心に、あんしんセンター、高崎市社会福祉協議会、高崎市が一緒に動き始めています。

協議体ってな～に??

皆さんが日々の暮らしの中で困っていることを解決するために、地域住民同士で助け合いの輪を広げて、支えあいを考えていくチームです。

～ 支えあい 助けあい つなげよう ～

【お問い合わせ先】

- 高齢者あんしんセンター 箕郷いずみ（京の園 内）
電話：371-8503
- 高崎市社会福祉協議会 箕郷支所（福祉会館エスポワール 内）
電話：371-6868
- 高崎市長寿社会課 地域包括支援担当
電話：321-1319

ニーズ把握（困りごとアンケート実施）

- 【目的】課題整理表の優先順位が高かったごみ出し、買い物についてアンケートを実施し、困難者を抽出する。
- 【方法】民生委員、区長、長寿会代表、いきいきサロン代表へアンケート実施。
- 【対象】箕郷地域在住者
- 【時期】R1.9～10
- 【結果】買い物やごみ出しに困難を抱える世帯はひとり暮らし世帯が大半であり、それらの世帯の多くは、地区役員や近隣住民の個人的な支援に頼っている状況です。今回の結果を踏まえ、今後は小学校区ごとにモデル地区を設置し、困難世帯を支援する取り組みを検討していきたいと思えます。



メッセージ、PRしたいこと

元々小地域福祉活動やいきいきサロン活動が活発に行われていた地域です。住民の意識が高く、基盤も整っています。

地域住民主体で取り組む行事がたくさんあり、団結力と実行力があります。（例えば、箕輪城祭り、きつねの嫁入り、アゲアゲ祭、ふれあい広場、芸能発表会、バザー、一人暮らしの集い、旧下田邸茶会など）

その力を活かして、地域住民のための新たな取り組みを創り出し、箕郷地域がより住みやすい地域になるように活動していきたいです。

あわせて、今後も継続して協議体を住民に周知し、協力してもらえよう働きかけていきたいです。

六郷・北部地区協議体

地域：六郷・北部小学校区
 人口：16,466人 高齢化率 25.24%
 発足時期：H29.9 メンバー数：21人
 開催日時：第4火曜 10:00～11:30
 場所：六郷公民館

スローガン／目指す地域像

向こう三軒両隣



協議体の特徴や雰囲気

六郷と北部の2地区より構成されており、メンバーの人数が多い協議体です。地域の情報、いきいきサロンや居場所の情報を共有しています。メンバーの中には、いきいきサロン主催者や民生委員、そして介護予防サポーターなど地域で活躍している方が多いです。

円陣を組んで協議したり、ときには、2～3グループに分かれ、テーマに沿って話し合ったりしています。向こう三軒両隣で協力し合う街づくりを目指しています。

周知

【目的】協議体が発足したことを知ってもらう

【方法】地域のイベントで配布 メンバーが手配り
 回覧

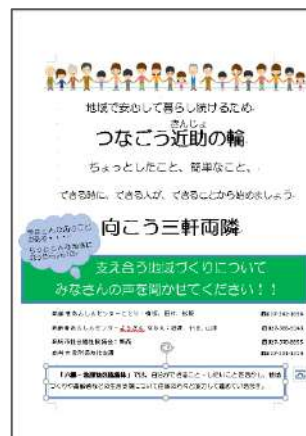
【対象】高齢者を中心とした幅広い世代
 区長、民生委員など地域の役員

【時期】H30.10～H31.4 R1.9～

【結果】防災訓練や、芸能発表会など大きなイベントで手配りしました。配布しただけでは協議体の主旨が住民に伝わらないことに気付き、いきいきサロンや個別で配布をするときには、わかりやすいように説明してから配るよう心がけました。

活動の経過

H29.9	六郷・北部地区協議体発足 勉強会を経て、21人のメンバーで発足しました。
H29.11	スローガン決定 メンバーで話し合い、「ちょっとしたこと、簡単なこと、できることから」助け合う街づくりができればとの思いを込め、「向こう三軒両隣」としました。
H30.1	地域の困りごとを抽出 「交流」「買い物・移動」「ごみ出し」から取り組むことにしました。
H30.10～ H31.1	周知チラシを配布 地域の行事や回覧、各メンバーが個別に周知チラシを配布しました。
H31.4	区長会へ協議体の説明を行う 協議体の周知に区長のご理解・ご協力が不可欠なため、区長会へ説明をしに行きました。
R1.6～9	2回目の周知チラシ作成を検討
R1.9～	周知チラシを地域の行事にて配布





各メンバーの地域情報共有

交流の場

六郷地区サロン一覧

番号	サロン名	開催場所	実施日	定員	開催時間	開催日時	参加人数
1	ひらめきサロン	高宮東側国庫敷地内	毎月第1回	20人	13:30~15:30	毎月第1回 10/10	20人
2	おくわひびくサロン	高宮東側	毎月第2回	20人	13:30~15:30	毎月第2回 10/24	20人
3	いきいきサロン	下小島駅前	毎月第3回	20人	13:30~15:30	毎月第3回 11/7	20人
4	いきいきサロン	上小島駅前	毎月第4回	20人	13:30~15:30	毎月第4回 11/21	20人
5	いきいきサロン	上小島駅前	毎月第5回	20人	13:30~15:30	毎月第5回 12/5	20人
6	いきいきサロン	上小島駅前	毎月第6回	20人	13:30~15:30	毎月第6回 12/19	20人
7	いきいきサロン	上小島駅前	毎月第7回	20人	13:30~15:30	毎月第7回 1/2	20人
8	いきいきサロン	上小島駅前	毎月第8回	20人	13:30~15:30	毎月第8回 1/16	20人
9	いきいきサロン	上小島駅前	毎月第9回	20人	13:30~15:30	毎月第9回 1/30	20人
10	いきいきサロン	上小島駅前	毎月第10回	20人	13:30~15:30	毎月第10回 2/13	20人
11	いきいきサロン	上小島駅前	毎月第11回	20人	13:30~15:30	毎月第11回 2/27	20人

ニーズ把握

- 【目的】** 地域の高齢者が何に困っているかを知る
- 【方法】** 日ごろ地域の方々と関わっているメンバーが話し合い困っていることを抽出する
- 【対象】** 一人暮らしの高齢者、高齢者世帯など
- 【時期】** H30.1
- 【結果】** メンバー同士で困りごとを抽出すると「交流」「買い物・移動」「ごみ出し」が困難であることがわかりました。閉じこもりがちの方やなかなか交流が苦手な高齢者が多いことがわかりました。地域の商店が閉店し買い物ができない方やごみ出しを苦労していることがわかりました。



サロンの一覧作成
メンバーが自主活動として
カフェを立ち上げ

買い物

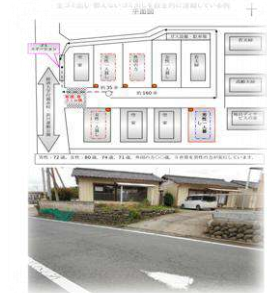


上小島町や
上小島町に
移動販売の
車が来るよ
うに働きか
けました。

社会資源の把握と活用

- 【目的】** 地域の資源を知る（いきいきサロン、交流の場等）
- 【方法】** メンバーが地域の交流の場を調べる
- 【時期】** H30.3~
- 【結果】** ニーズ把握の中からまずは、交流について取り組むこととなりました。「交流の場で日常的に困りごとが言い合える関係ができれば買い物やゴミ出しの問題も解決していくのではないか」という意見が出ました。メンバー自身がいきいきサロンを主催している方も多く、多くのいきいきサロンや集いの場の状況が確認できました。メンバーがカフェを立ち上げたり、商店が無くなった地域への移動販売やごみ出しの助け合いなどの働きかけをしました。

ごみ出し



ごみ出しに行けない方を同じご近所の方が手伝っていたり、声掛けをしました。

メッセージ、PRしたいこと

協議体を始めたことで地域や隣近所に目が向き始めました。人の集まる場所が次第に増え、つながりが大事だと感じました。困っている人が困っていると声を出しやすい環境を作り、ちょっとしたことを手伝える担い手を増やしたいです。また、自分にできることを見つけ役割や喜びを感じながら、「向こう三軒両隣」として助け合う地域づくりを目指します。

長野地区協議体

(愛称) あんしん長野まちづくりの会

地域：長野小学校区

人口：8,511人 高齢化率：32.95%

発足時期：H29.8 メンバー数：21人

開催日時：毎月1回 13:30～15:30

場所：長野公民館

スローガン／目指す地域像

手をつなぎ 心をつなぐ長野地区



協議体の特徴や雰囲気

発足当初は「地域の支え合い・助け合いを増やす仕組みを考えましょう」という協議体についてわからないことだらけで、雲をつかむ思いでした。ちょっとしたこと・できることから始めればいいとわかり、堅苦しかった雰囲気も回を重ねるにつれ、なごやかになってきました。

毎回冒頭に、各メンバーがこの1ヶ月間の町内の出来事を発表し情報交換をしています。これによって、緊張した雰囲気が緩和され、いい効果が現れています。

周知

【目的】協議体が発足したことを伝える

【方法】チラシを作成、回覧。病院・金融機関にチラシを設置。いきいきサロンやアンケート聞き取り調査時にも周知活動を実施。

【対象】長野地区住民

【時期】H30.8

【結果】チラシによる周知を行いました。数回見聞きしただけでは、まだまだ知られているとは言えず、継続的な周知活動が必要であると思えました。

そのためには何が必要か、協議体でアイデアを出していきたいと思います。

活動の経過

H29.8	<u>長野地区協議体発足</u> 4回の勉強会を経て、21人のメンバーで発足しました。
H30.5	<u>協議体の愛称決定</u> 堅苦しい協議体のイメージを払拭したい思いから作成しました。
H30.8	<u>スローガン決定</u> 色々なスローガンが出てきて、絞り込むのに苦労しました。
H30.8	<u>周知チラシを作成・回覧</u>
H30.8～10	<u>アンケート実施</u> 困りごと調査のために75歳以上の独居・高齢者世帯を対象にアンケートを実施し、358人から回答をいただきました。
RI.3	<u>社会資源冊子の検討</u>
RI.9	<u>区長会で説明を行う</u> 生活支援ガイドブック配布の協力依頼のため、区長会へ説明に行きました。
RI.10	<u>生活支援ガイドブック完成!</u> 日常生活で困りごとを感じた時に活用できるお役立ち冊子を1,500部作成しました。



ニーズ把握

【目的】 地域の高齢者の方は何に困っているのかを知る

【方法】 いきいきサロン・戸別訪問などを通して、原則聞き取りで 困りごとアンケートを行う

【対象】 75 歳以上の独居・高齢者のみの世帯等

【時期】 H30.8～10

【結果】 「買い物や通院などの移動手段に現在困っている人、今後困ると不安に思っている人」が多いことが分かりました。また、ちょっとしたことを手伝ってもらいたい人が多いが、頼みづらいと感じている人がいることもわかりました。

【結果】 メンバーが知らない社会資源も多く、新たな地域の社会資源を把握することができました。また、町内ごとに比した結果、地域によって利用できる社会資源が少ないことがわかりました。

高齢者のニーズと社会資源を結びつけるため、地域のお役立ち情報を冊子にまとめました。日常生活でちょっとした困りごとを感じたとき、誰かと会って話をしたいとき、居場所を見つけたいときに役立つ情報を掲載し、住み慣れた町でいつまでも生活が続けられることを願い作成しました。



今後の活動

担い手の養成は今後の課題になります。地域のみなさんが協力し合えば解決できそうな困りごとを調べ、どんな担い手が必要になるかを把握した上で、担い手の募集や養成をしていきたいです。地域のネットワークを活用して、支え合いに協力してくれる人を探し、地域の担い手を増やしていきます。

社会資源の把握

【目的】 高齢者の生活に役立つ社会資源を知る

【方法】 各メンバーが知っている情報を持ち寄る。

分からないことは、町内ごとに情報収集を行う。

【時期】 H31.1～9

名称	問い合わせ先	内容	種別	営業	対象者	備考	備考
とくしあ	027-328-0213	おたのしみ会	高齢者施設	24時間体制	どなたでも	スーパー・福祉・保健・介護の連携が図られている	
長野市高齢者センター	027-328-0213	高齢者センター	高齢者施設	24時間体制	どなたでも	スーパー・福祉・保健・介護の連携が図られている	
高齢者の居場所づくり	027-328-0213	高齢者の居場所づくり	高齢者施設	24時間体制	どなたでも	スーパー・福祉・保健・介護の連携が図られている	
高齢者の居場所づくり	027-328-0213	高齢者の居場所づくり	高齢者施設	24時間体制	どなたでも	スーパー・福祉・保健・介護の連携が図られている	
高齢者の居場所づくり	027-328-0213	高齢者の居場所づくり	高齢者施設	24時間体制	どなたでも	スーパー・福祉・保健・介護の連携が図られている	



メッセージ、PRしたいこと

- ・メンバーが活発に意見を出し合っている、良い雰囲気の協議体です。
- ・地域住民とメンバーが一体となり、住みやすい町づくりを目指しています。
- ・『生活支援ガイドブック』という立派な冊子が出来上がりました！
- ・自主的な居場所が複数立ち上がっている地域です。協議体としてもがんばります！

寺尾・城山地区協議体

地域：寺尾・城山小学校区

人口：8,640人 高齢化率：33.01%

発足時期：H29.9 メンバー数：19名

開催日時：第2週/10:00~11:30

場所：城山公民館

スローガン/目指す地域像

わざっと声かけ 三つの輪（城山・寺尾・石原）



協議体の特徴や雰囲気

毎回冒頭に、ときにはアイスブレイクも織り交ぜながら、メンバーの町内の状況や活動などを報告しています。時には熱く、時にはクールに、そして、時には“脱線”するものの、最後には必ず一つにまとまっています。焦らず、無理せず、少しずつではありますが、着実に前進しています。



活動の経過

H29.9	<u>寺尾・城山地区協議体発足</u> 4回の勉強会を経て、14人のメンバーで発足しました。
H29.9	<u>めざす地域像決定</u> メンバー同士で意見を出し合い、こんな地域になってほしい、親しみやすい表現にしたいという思いを込めました。
H30.5	<u>地区社協へ説明を行う</u> 協議体が発足したことを理解してもらうため、周知チラシ（案）を使用して、地区社協の総会で説明しました。
H30.7	<u>周知チラシを作成・回覧</u>
H31.4	<u>生活状況に関するアンケート実施</u> 地区内の全世帯に向けてアンケートを実施。今後の支え合い活動に大いに参考となる貴重なご意見をいただくことができました。ちなみに“平成最後”の活動となりました。
RI.10	<u>生活状況に関するアンケート結果を回覧</u> 地域住民の皆さんが支え合い活動を考えるきっかけになるよう、協議体として結果をフィードバックしました。

社会資源の把握

【目的】地域の社会資源を整理する。不足しているものを把握する。

【方法】地域資源一覧表をもとに、メンバーからの情報を地図に落とし込み（マッピング）、整理する。

【時期】H29.12

【結果】メンバーの「地域の高齢者が何を求めているのかわからない」という発言から、困りごとなどをアンケートや聞き取り調査してもよいのではないかという意見が出ました。しかし、まずは「自分たちが自分たちの地域を知ろう!」ということで、自分たちの地域にどのような社会資源があるのか調べることから始めました。ちょうど高齢者あんしんセンターが作成した地域資源一覧表があったため、それをもとにして、地域資源を地図に落とし込んでいきました。残念ながら地図は未完成であり、一覧表は更新されていません。しかし、メンバーが“協同”していくことの原点になったような気がします。

周知

【目的】協議体を知ってもらう。共感してもらい、協議体や支え合い活動の仲間を増やす。

【方法】区長会や地区社協への説明。チラシの回覧。

【対象】幅広い世代（地区内の全世帯に向けて）

【時期】H30.7

【結果】メンバーの中に区長会長さんがいるため、区長会や地区社協への説明は、区長会長さんが行ってくれました。しかし、新しい取り組みのため協議体を理解してもらうことはなかなか難しく、メンバーの共通認識をもとに丁寧な説明を継続していくことが必要だとわかりました。

どうしたら地域の人たちに支え合いの大切さを知ってもらえるか、そのためには伝える媒体が必要なのではないかと、議論の末、言葉一つ一つや細部に至るまで、メンバーそれぞれの意見を反映し周知のチラシを作成しました。チラシを見た地域住民の反応を期待していましたが、残念ながら問い合わせなどはなく、協議体を理解してもらうこと、支え合いの仲間を増やすことは難しいと痛感しました。



ニーズ把握

【目的】現在不便に感じていること、今後不便に感じられると思われること、ご近所で手助けが必要な方のために「これならできそうだ」と思うものを把握する。

【方法】アンケート調査

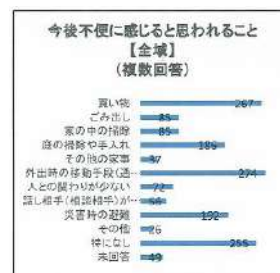
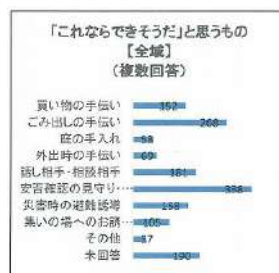
【対象】地区内の全世帯

【時期】H31.4～R1.5

【結果】アンケートを実施することを区長さんにも理解してもらうため、区長会で説明したところ、配布・回収は、全面的に協力してくれることになりました。「買い物」や「外出時の移動手段」、「災害時の避難」に不便を感じている、今後不便に感じられるという回答が多く、いずれにしても「移動の足」に不安を感じている人が多いことがわかりま

した。「これならできそうだ」と思うものとしては、「安否確認の見守り・声かけ」や「話し相手・相談相手」、「ごみ出しの手伝い」の回答数が多く、「身近なことから何かしなければ、何かしたい」という気持ちが感じられる結果となりました。全体の1割強ではありますが、20～40歳代の人からも回答していただきました。アンケート実施後、「地域のことをより深く考えるようになった」、「夕方に見守りを兼ねて外出するようになった」と、さっそく具体的な行動を起こすメンバーもいました。

地域住民に支え合い活動を意識してもらうきっかけにするために、アンケート結果を回覧してフィードバックしました。



今後の活動

協議体発足後、情報共有を中心に、周知やニーズ把握を行ってきましたが、まだまだ具体的な活動には結びついていません。しかし、メンバーそれぞれが自身の町内会やボランティア活動などに熱心であり、協議体会議で他のメンバーからの情報や活動内容に刺激を受けながら、自分たちの町内会やボランティアの活動をさらに活発化させようとしています。

今後も当地区の協議体は、メンバーの「情報ステーション」的な役割を果たしていきたいです。



メッセージ、PRしたいこと

✓「高齢者が支え、創造していく地域の絆」がサブ・スローガンです！

✓「“古き良き昭和の時代”のようなつながりができるといいな」が願いです。

メンバーMさんの手作り弁当。昨年度の第2層協議体情報交換会のときの差し入れです！



豊岡地区協議体

(愛称) **たし手豊岡結の会**

地域：豊岡小学校区

人口：9,763人 高齢化率：26.63%

発足時期：H29.8 メンバー数：17人

開催日時：第3木曜 午後1:30～3:00

場所：高齢者あんしんセンター豊岡・八幡

スローガン／目指す地域像

背中押し、みんなで起きあがれる町づくり



協議体の特徴や雰囲気

メンバーから情報、意見などが積極的に出る和やかな雰囲気の協議体です。各町内、豊岡地区全体を良くしていきたいという気持ちをメンバーみんながもっています。パソコン操作ができるメンバーがみんなの意見を取り入れながらチラシを作成したり、地域の資源はそれぞれのメンバーが情報を持ち寄ったり、協力し合いながら進んでいます。

周知

【目的】協議体が発足したことを知ってもらう
担い手募集

【方法】チラシの回覧、全戸配布。区長会、豊岡地区社協総会、ボランティア総会で活動について説明。

【対象】地域住民（回覧、全戸配布）
区長、民生委員、ボランティア、地区社協の会員には説明。

【時期】H30.2 H30.4 H30.8 R1.9

【結果】区長会での説明は、区長でもある2層メンバーが行いましたが、「地域に新たなボランティア活動が増えたのかな」と感じている人が多く、まだまだ協議体への理解を進める必要があると感じました。ボランティアの会、地区社協では、2層メンバーでもある会員がチラシを見せながら説明をしました。

周知のチラシ NO.1 作成にあたっては、同じ町内の人の方が連絡しやすいだろうということで、各地区の2層メンバーの名前と電話番号を載せました。その結果、担い手希望者が2人と、ごみ出し、庭木の剪定、買い物等について問い合わせがありました。

チラシ NO.1 は、豊岡公民館、長寿センター等に置かせていただきましたが、他のチラシなども多くあり目につきにくいので、チラシNo.2 は、各町内の公民館や掲示板に掲示させていただきました。

活動の経過

H29.8	<u>豊岡地区協議体発足</u> 4回の勉強会を経て、10人のメンバーで発足
H29.9	<u>愛称決定</u>
H29.10	<u>スローガン決定</u> 「困っている人はひとりでは支えられない」「動ける人を探さなければ」「地域で安心して暮らし続けるまちづくり」「だるまの里、転んでも起き上がる町づくりを目指そう」とメンバーで決めました。
H29.10	<u>豊岡団地で買い物に関するアンケート実施</u> 買い物支援、灯油の配達業者を調べて共有
H30.2	<u>区長会で活動について説明</u>
H30.4	<u>豊岡地区社協総会・ボランティア総会で協議体について説明</u>
H30.8.	<u>チラシNO.1を作成8/1回覧、8/15全戸配布</u> 民生委員によるごみ出しについてアンケート実施
H31.4	<u>民生委員に依頼し、いきいきサロンで買い物・ごみ出し・困りごとについて聞き取り</u>
R1.9	<u>担い手募集のチラシNO.2全戸配布</u>



ニーズ把握

- 【目的】高齢者は何に困っているか、現在どんな支援がされているかを知る。
- 【方法】2層メンバー・民生委員が、訪問・聞き取り調査。
- 【対象】高齢者世帯、いきいきサロン参加者等
- 【時期】H29.10 H30.9 H31.4
- 【結果】近所の人に買い物やごみ捨てをしてもらっている人や、週末に家族の支援を受けている人が多かった。「ごみ出しは隣の人には頼みにくい」「一緒に買い物へ連れて行ってほしい」「剪定や草おしりはお金を支払ってでもしてほしい」という声が聞かれました。



協議体メンバーが作ったアンケート用紙

社会資源の把握

- 【目的】困りごと（買い物に行けない、灯油を運べない）をもとに、配達してくれる業者を把握する。
- 【方法】各メンバーが情報を持ち寄り、不明な点はメンバーで店舗等に問い合わせをした。
- 【時期】H29.10～
- 【結果】灯油の2階への配達は、ひとつの業者がしているが新規の対応はできない。買い物については、電話注文で配達してくれる店や、店舗で買った荷物を配達してもらえる店があるなどの情報を整理しました。
同時に担い手として、定期的な支援は難しいが時々のお手伝いならできるという人がいました。



協議体メンバーで持ち寄ったチラシや写真

メッセージ、PRしたいこと

協議体の時間内にまとまらないくらい、たくさんの意見が出ます（笑）
担い手不足が課題！ みなさんご意見をください。出向いて行きます。教えてください。

高齢者の居場所

地域でつながる・つなぐ
「地域の支え合い・介護予防・社会参加」

高齢者の居場所とは

高齢者の自立支援を促進し、住民同士のつながりや支え合いの創出拠点として、地域や世代を限定せずに、誰もが自由に参加できる集いの場です。

高崎市では、一定の条件を満たした場合、月 1 万円の高齢者の居場所運営事業補助金が受けられます。市内には、10 か所の居場所があります (R1.12 現在)。

役割

- ・ 高齢者の社会的孤立感の解消
- ・ 心身の健康維持増進
- ・ 要介護状態の予防
- ・ 地域での支え合い体制の確立

居場所の紹介

道草カフェ恵	
開催日時	毎週月曜 (第 5 月曜休) 午後 1 時～午後 4 時
所在地	岩押町 36-15 (岩押町第一公民館)
内容	茶話会、リクレーション、手芸、ストレッチ、ラフターヨガ、マージャン 季節行事
代表者	田中 恵子
最寄りのあんしんセンター	高齢者あんしんセンター若宮苑
【活動の様子】	
  	

コミュニティカフェ 一休さん

開催日時	毎週火曜 午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分(第 1 火曜は午前 10 時～午後 3 時)
所在地	上中居町 1625-9 (上中居町第一町内会集会所)
内容	手芸、折り紙、脳トレ、ラフターヨガ 第 1 火曜日はカレーづくり
代表者	設楽 多恵子
最寄りのあんしんセンター	高齢者あんしんセンター若宮苑

【活動の様子】



たすけあいサロンよってって片岡

開催日時	月曜～金曜 (土日祝休) 午前 10 時～午後 3 時
所在地	片岡町 3 丁目 2-18
内容	各種催しや教室 (映画鑑賞会、ギター教室、楽しいコーラス等) 食事の提供 (ワンコイン定食) ふれあいバザー (3 ヶ月に 1 回開催) ひまわりカフェ (認知症カフェ) 月 1 回開催
代表者	NPO 法人ハートフル (代表) 櫻井 宏子
最寄りのあんしんセンター	高齢者あんしんセンター高風園

【活動の様子】



居場所 八起き

開催日時	毎週火曜 午前 10 時～午後 1 時
所在地	下大島町 510 (元須田ダルマ店)
内容	通常はおしゃべり、困りごとなどの相談 *年に数回、イベント（健康体操、オセロなどのゲーム、吹き矢、卓球、お笑い、ギター演奏と歌）、講演（防災、健康などの話）
代表者	平見玉 安雄
最寄りのあんしんセンター	高齢者あんしんセンター八幡

【活動の様子】



つどいの場・あしたば

開催日時	毎週水曜（第 5 水曜休） 午後 1 時～午後 4 時
所在地	高浜町 897-6
内容	お茶飲み、おしゃべり、歌唱、ゲーム、工作、軽体操、YouTube 視聴、講話拝聴、地域情報交換（含む見学）、一緒に昼めしを、お出かけ、その他 相談して
代表者	木暮 清美
最寄りのあんしんセンター	高齢者あんしんセンターはるな

【活動の様子】



誰かいるかい

開催日時	毎週木曜 午前9時～正午
所在地	高浜町1971（高浜交流館）
内容	お茶会、健康体操、脳トレパズル、悩みごと相談、お食事会、ブルーベリー狩り、バス旅行、カラオケ、DVD鑑賞
代表者	植杉 輝彦、植杉 ふみ江
最寄りのあんしんセンター	高齢者あんしんセンターはるな

【活動の様子】



くじら森 ふれあいの家

開催日時	毎週月曜 午後1時30分～午後4時30分
所在地	東貝沢町2丁目10-2（町田橋住民センター）
内容	お茶会、食事会、輪投げ、折り紙、トランプ、将棋、囲碁、オセロ、ポッチャ 輪投げ大会、ポッチャ大会、ビンゴ大会、講演会、等
代表者	飯塚 昭三
最寄りのあんしんセンター	高齢者あんしんセンター若宮苑

【活動の様子】



地域サロンハッピー 井出いこいの家

開催日時	毎週火曜～木曜（第3水曜休）、第2金曜、第4金曜 午前9時30分～午後12時30分
所在地	井出町1683-1
内容	定例のイベント、お茶会 *毎月1回月曜日に公開イベントとして勉強会や鑑賞会を開催（健康チェック、介護の話、コーラスを聴くなど）
代表者	福島 和子
最寄りのあんしんセンター	高齢者あんしんセンタールネスニ之沢

【活動の様子】



さかみち・よりみち

開催日時	毎週月曜 午後1時30分～午後4時30分
所在地	高浜町554（坂上住民センター）
内容	脳トレ、体操、歌、お茶飲み、創作、ぬり絵
代表者	岡田 文男
最寄りのあんしんセンター	高齢者あんしんセンターはるな

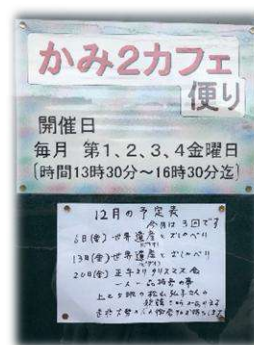
【活動の様子】



かみ2カフェ

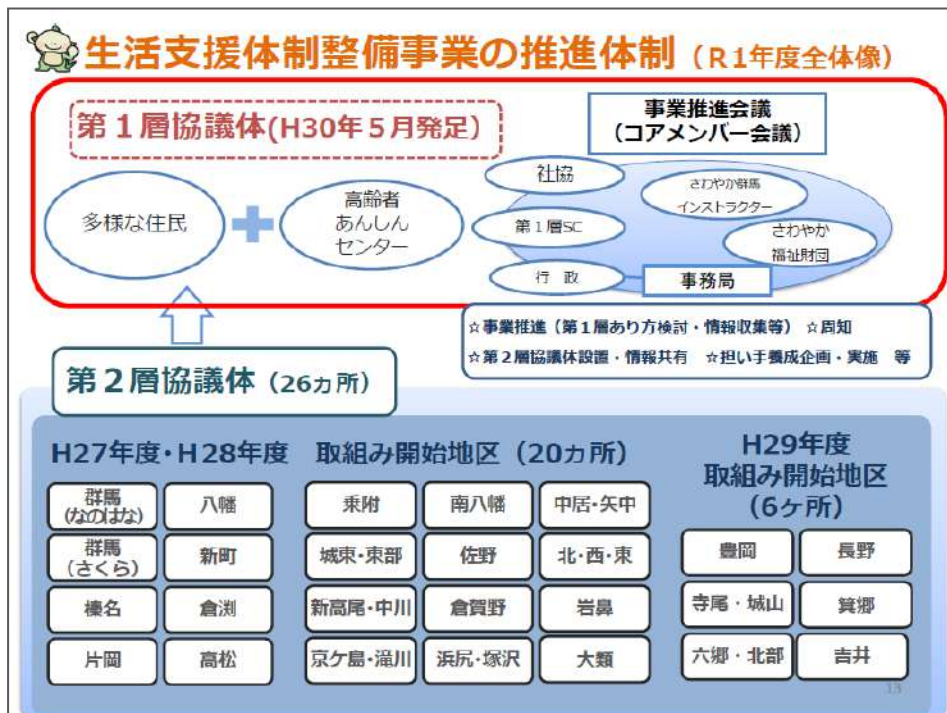
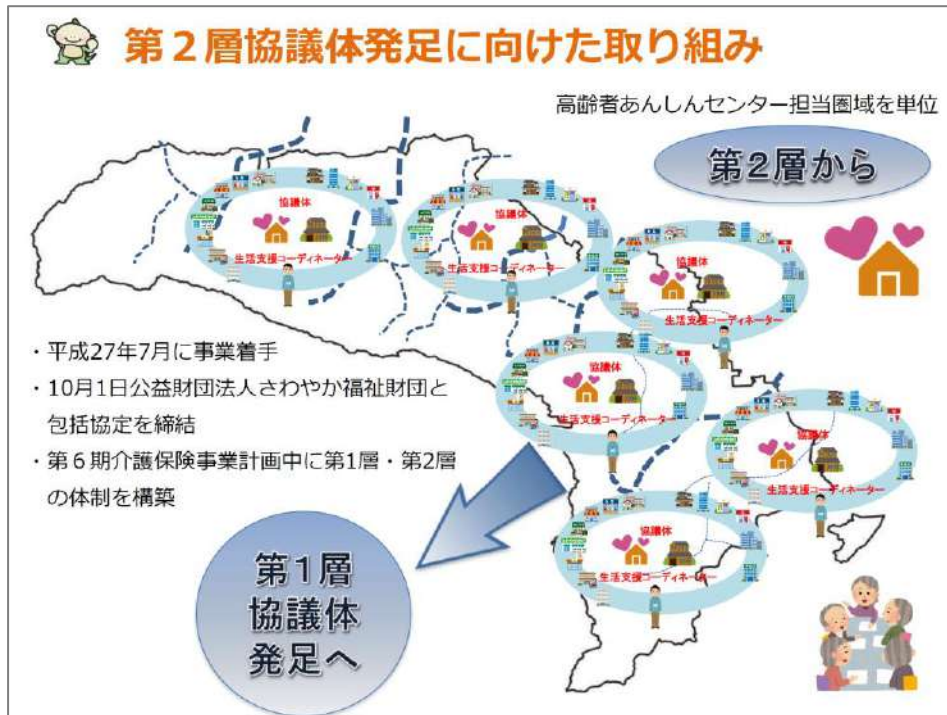
開催日時	毎週金曜（第5金曜休） 午後1時30分～午後4時30分
所在地	倉賀野町 5575-6
内容	お年寄りの溜り場、スポーツ吹矢、健康とお薬の話、美術鑑賞（随時）、 民話の語り、手仕事、作品づくり
代表者	小金澤 信子
最寄りのあんしんセンター	高齢者あんしんセンター倉賀野・新町南

【活動の様子】



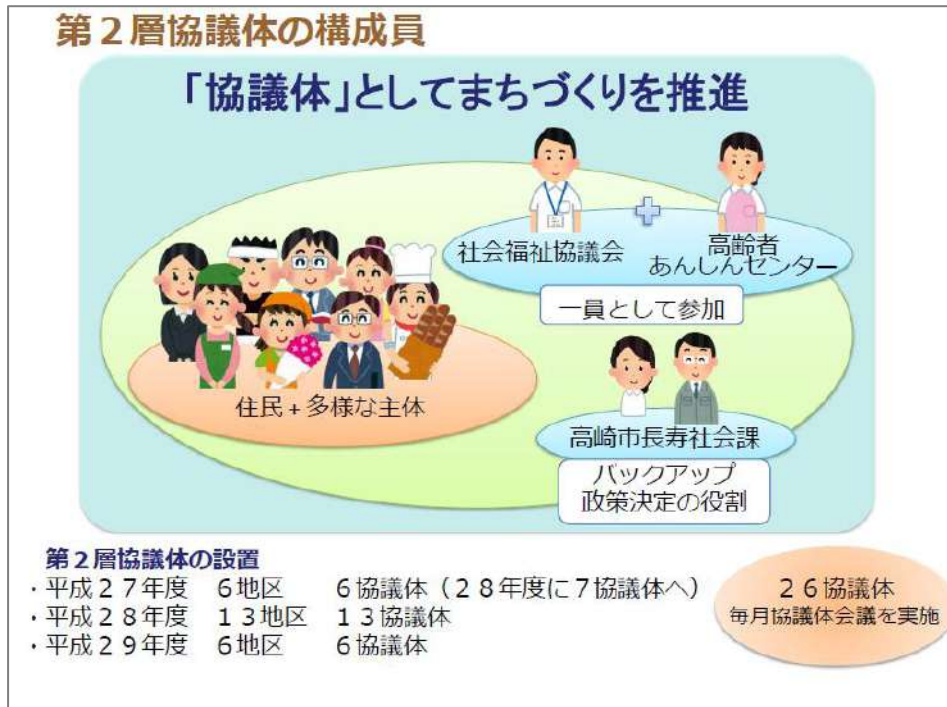
3. 取り組みの体制

平成27年度から地域ごとの支え合いの創出や効果的な生活支援サービスの構築に向けた仕組みづくりについて検討を行い、市内全域で多様な生活支援サービスの提供体制の構築に向けた「協議体」によるまちづくりを推進しています。



◆第2層協議体

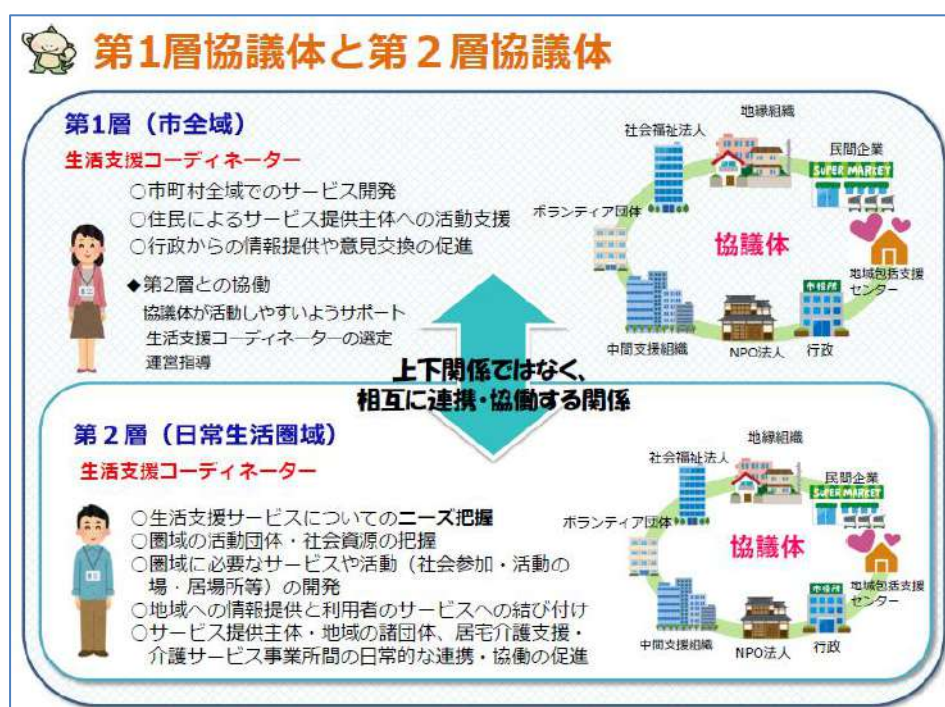
各第2層協議体は、高齢者あんしんセンター担当圏域をおおむね一つの単位として、毎月1回協議体会議を開催しています。住民が共通の目的を持つために「目指す地域像」を掲げ、地域情報の共有、地域住民への周知活動、ニーズ把握(アンケート、聞き取り等)、社会資源把握(マッピング、一覧作成等)、担い手の養成(支え合いの仲間づくり等)、まずはできる事から始め、そして継続させるための仕組みづくりについて取り組んでいます。



◆第1層協議体と第2層協議体の関係

市全域の支え合いの体制づくりを考えるため、平成30年5月に第1層協議体が発足しました。支え合いの活動を全市的に広げるために、会議を毎月開催し第2層協議体の情報共有及び普及啓発のための企画・検討を行っています。第1層協議体と第2層協議体は上下関係ではなく、相互に連携・協働し、地域の課題や資源の把握等を進め、各協議体の機能強化等を行いながら、住民主体の支え合い創出に向けた取り組みを推進していきます。

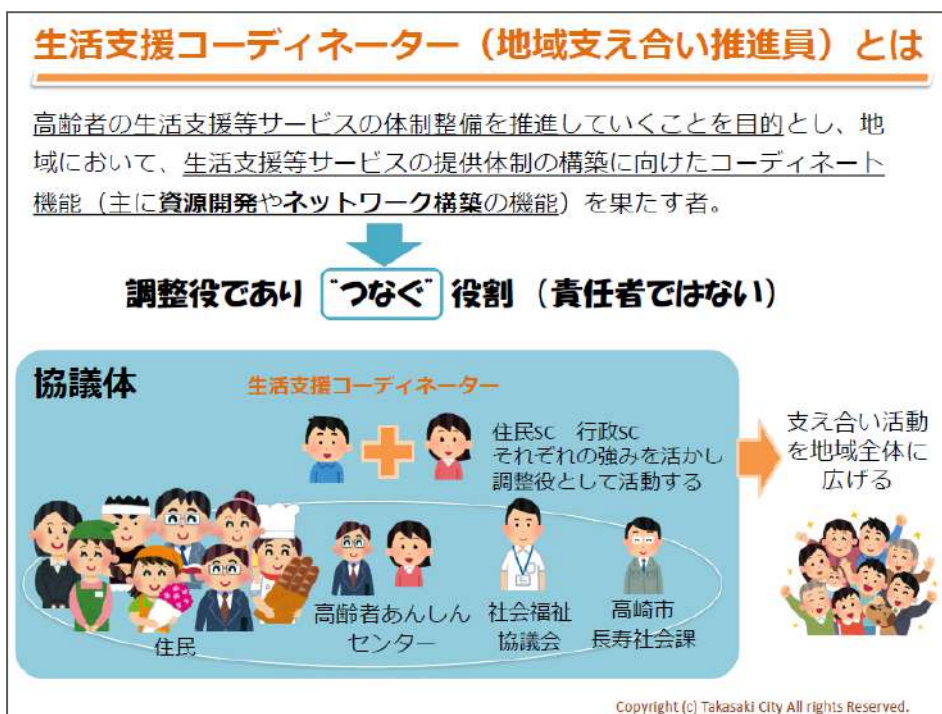
令和元年12月現在、第1層協議体は住民メンバーを中心とした企画会議と、推進役の高齢者あんしんセンターを中心とした推進会議を行っています。住民メンバーを中心とした企画会議では、支え合いを市全域にどう広められるか、第1層協議体で活動状況を共有し、第2層協議体が活動しやすいようにするための周知について企画や検討を行っています。



◆第1層生活支援コーディネーター

第1層生活支援コーディネーターは、高崎市内全域での支え合い活動の創出、支援ならびに第2層協議体の活動推進のための情報提供や支援を行っています。第1層・第2層協議体と連携を取りながら、高崎市の支え合いを生み出し、広める活動を行っています。

具体的な活動として、市全域でのサービス開発、住民によるサービス提供主体への活動支援、行政からの情報提供や意見交換の促進、第2層協議体が活動しやすいようサポートしています。



◆高齢者あんしんセンター

高齢者あんしんセンターは、高齢者の抱える心配ごとや悩みごと、介護保険に関する疑問などの総合相談窓口です。平成27年に「待つ福祉から出向く福祉」へと福祉行政の大転換を図り、現在高齢者あんしんセンターは市内29ヶ所に設置され、市（長寿社会課）と緊密に連携しながら業務を行っています。

設置されてから4年が経過し高齢者あんしんセンターは、高齢者への積極的な訪問により、地域に浸透してきました。今後も地域に根ざした活動に努め、誰もが安心して暮らせる地域社会の推進を目指す地域包括ケアシステムの構築を担う中核機関として、高齢者の総合相談、権利擁護、介護予防ケアマネジメント及びケアマネジメント支援業務に加え、在宅医療・介護の推進、認知症施策の推進、地域ケア会議の推進と共に、生活支援体制整備事業に取り組んでいきます。



◆高崎市社会福祉協議会

高崎市社会福祉協議会では、「地域の支え合い、助け合いによる共生社会の実現」を基本理念として、地域住民や各種団体等と相互協力して地域の課題解決のための取り組みを行っています。

生活支援体制整備事業では、第1層協議体や第2層協議体に担当職員が参加して、高齢者あんしんセンターや行政と連携して支え合いの地域づくりを目指しています。

その他、身近な地域課題に対応していくため、把握した課題を関係機関に繋ぎ連携を図ったり、本会の事業担当者に繋いだりして困りごとの解決に取り組んでいます。

高崎市社会福祉協議会では、様々な事業を実施していますが、主なものは以下のとおりです。

○日常生活自立支援事業

高齢者や障害者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、日常的な金銭管理の支援を行います。

○高齢者等買物代行事業

日常的な買い物に困難を抱えている高齢者等を対象に、登録されたボランティアによる日常生活用品（生活に欠かすことができない食料品や日用品）の買物代行事業を行います。

○傾聴ボランティア派遣事業

話をする機会が減ったり、誰かと話をしたいという希望がある高齢者を対象に、傾聴の知識を持つボランティアを自宅へ派遣します。

○福祉用具貸出

一時的に車いすが必要となった方に車いすを貸出しています。

その他、学校や職場の福祉教育、体験に、車いす、高齢者疑似体験用具、アイマスク、簡易点字器を貸出しています。

○手話通訳派遣事業

聴覚障害者とその他の方との日常生活及び社会生活に必要なコミュニケーションを円滑にするために、必要に応じて手話通訳者を派遣します。

○ふれあい・いきいきサロン、ふれあい・子育てサロンへの支援

各地域の「ふれあい・いきいきサロン」、「ふれあい・子育てサロン」へ支援をしています。

◆地域支え合いサポーター

地域支え合いサポーターは、地域のために何かしたいという思いを持ち、協議体の趣旨に賛同した人で、地域づくりについて考えたり、地域の支え合いの活動の担い手として活動しています。第2層協議体と連携しながら、自分たちのできることから、地域の高齢者の日常生活の困りごとに対応した活動を行っています。

第2層協議体では、市と協議体の共催で地域支え合いサポーター養成講座を開催し、地域で必要な担い手を養成したり、既に活動している地域支え合いサポーターのスキルアップなどを行っています。



4. 参考資料

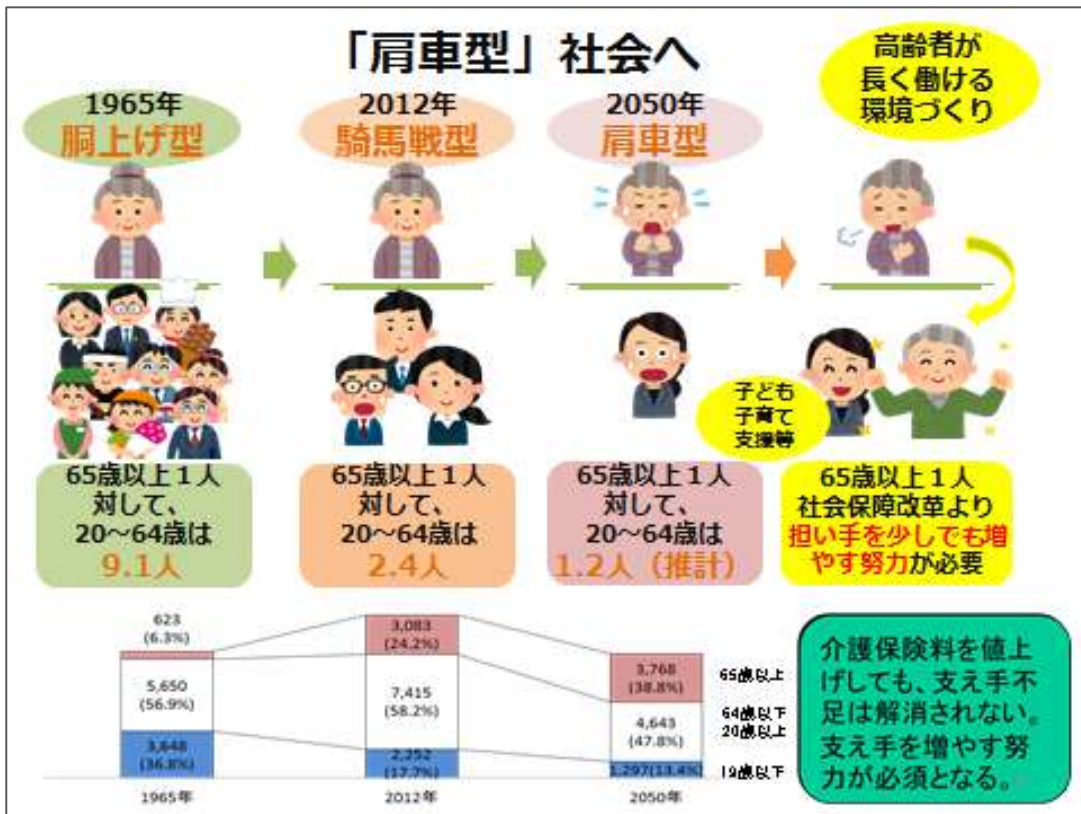
◆高崎市の高齢者の状況

1. 総人口・高齢化率

介護保険制度が導入された2000年の本市の総人口は358,465人（高齢化率17.3%）でしたが、2019年4月1日には373,331人（高齢化率27.6%）となり、超高齢社会に突入しています。

さらに、団塊の世代が75歳以上となる2025年には、総人口は減少しますが、65歳以上の人口は増加を続け、高齢化率は29%となるものと見込まれています（2015年の国勢調査の結果を基に国が算出した将来推計による）。

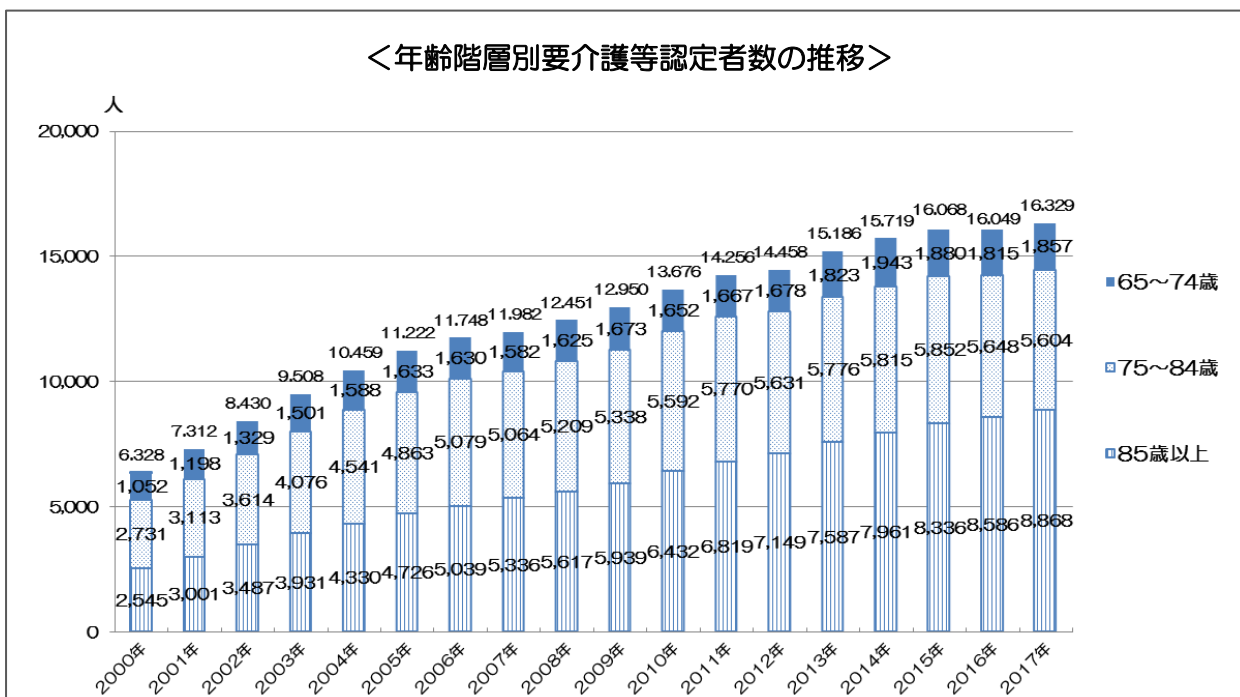
少子高齢化の進展により、医療や介護の需要は高まる一方、社会保障費の負担増や担い手不足の問題が心配されています。



2. 要介護等認定者数・介護保険料の推移

要介護等認定者数は、高齢者人口の増加に伴い年々増加してきていますが、総合事業の開始により2015年から伸びは緩やかになりました。2019年3月末には要介護等認定者数17,222人、65歳以上の人口に占める要介護認定率は16,7%となっています。

介護保険料基準額は、高齢者人口の増加や介護サービス利用量の増加を受け上昇しています。



※第2号被保険者を除く。

出典：高崎市高齢者あんしんプラン（2018年4年）

期間		基準月額保険料	
		高崎市	全国平均
第1期	H12-14	2,800円	2,911円
第2期	H15-17	3,140円	3,293円
第3期	H18-20	4,338円	4,090円
第4期	H21-23	4,000円	4,160円
第5期	H24-26	5,000円	4,972円
第6期	H27-29	6,200円	5,514円
第7期	H30-R2	6,475円	5,869円

介護保険の財源内訳は、50%を65歳以上（第1号被保険者）と40～64歳（第2号被保険者）の保険料で負担し、残りの50%を市・県・国による公費（税金）で負担しています。

◆制度・用語等の解説

【第2層協議体活動補助金】

→各第2層協議体が多様な取り組みを行っていることを踏まえ、第2層協議体がさらに活性化することを目的とした補助金です。年間上限は50,000円とし、管理方法や支出はメンバーの合意のもとに行われています。

【高齢者の居場所運営事業補助金】

→高齢者の自立支援を促進し、高齢者だけでなく住民全てが支え合う地域を目指し、支え合いの創出拠点となる居場所づくりの推進を目的とした補助金です。月額10,000円とし、週1回以上開催、地区を限定せずに、誰もが参加できるなどの要件を満たした居場所が対象です。

【高齢者サロン】

→「高齢者の居場所」は、高齢者の自立支援を促進し、住民同士のつながりや支え合いの創出拠点として、誰もが自由に参加できる集いの場です。

「通いの場」は、高齢者あんしんセンターや介護予防サポーターが関わり実施する、介護予防に効果のある継続して通える場です。

「ふれあい・いきいきサロン」は、社会福祉協議会が主体となって推進している事業で、地域の高齢者が歩いて行ける範囲にある公民館や集会所などに集まり、お茶飲みや食事、体操などをしながら、無理なく、仲間づくりや社会参加に結び付けていく交流の場です。

「認知症カフェ」は、認知症の人やその家族が、地域の人や専門職と相互に情報を共有し、認知症であっても地域で自分らしく暮らしていくことができるよう、認知症への理解や本人・家族の支援を目的とした交流の場です。

【地域支え合いサポーター養成研修】

→協議体活動で把握したニーズに合わせた担い手の養成するために、協議体の進捗に合わせて協議体・高崎市の共催で実施されます。支え合いが必要となった背景や、ボランティア活動の心構えや留意点を理解する基礎研修であり、導入部分として気軽に参加できる内容となっております。養成研修を受ける前でも、地域支え合いサポーターとして登録できます。

【介護予防サポーター】

→介護予防サポーターは、介護予防サポーター養成講座を受講した方で、介護予防に関する知識の普及や介護予防事業、地域の高齢者サロンなどの交流活動を行っています。

【認知症サポーター】

→認知症サポーターは、認知症に関する正しい知識と理解をもつことを目的に認知症サポーター養成講座を受講した方で、認知症の人や家族を見守る応援者となっています。

【オレンジサポーター】

→認知症サポーターのうち、さらにフォローアップ研修を受講した方で、認知症に関する知識の普及・啓発や訪問等による見守り活動、地域の認知症カフェの運営支援等を行っています。

【地域ケア会議】

→高齢者への支援の充実、介護支援専門員等のケアマネジメント実践力の向上、地域課題の解決等を目的として開催する会議のことで、「地域ケア個別会議」「地域別課題検討会議」「地域ケア推進会議」から構成されます。

【地域ケア個別会議】

→高齢者への支援を行うとともに、参加者のケアマネジメント実践力の向上を図るため、介護支援専門員、地域関係者、医療・介護専門職、権利擁護専門職等の多職種が参加して個別のケースの検討を行う会議です。

【地域別課題検討会議】

→「地域ケア個別会議」や地域包括支援センターの訪問・相談を通じて把握した地域課題の解決に向けた検討を行うため、地域関係者等が参加してする会議です。

【地域ケア推進会議】

→「地域ケア個別会議」、「地域別課題検討会議」や地域包括支援センターの訪問・相談を通じて把握した課題で、全市的なものについて、事業化・政策化の検討を行う会議で、高崎市介護保険運営協議会がその役割を担います。

【地域ケア会議と協議体の連携】

→地域ケア会議と協議体の連携により、地域ケア会議や協議体で明らかとなった地域課題を共有し、地域にある社会資源を積極的に活用しながら、不足している生活支援・介護予防サービスの充実を図っていく必要があります。